

第五次南風原町総合計画評価検証一覧表

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐づく細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
1 みんなで考え、みんなで作るわくわくするまち（自治・協働）	1 節 情報の共有でひらかれたまち	(1)町民と行政との情報共有の強化	①広報はえばるや議会だより等の広報誌の配付については、地域住民とのつながりの観点から各字・自治会からの全戸配付に向けた取組を継続します。また町民をはじめ多くの方が入手できるよう、公共施設の窓口や展示の場などにおける配布・入手機会の充実を図ります。	議会事務局・総務課・企画財政課	町の広報活動に関する満足度	65%	-	81%	-	①・「議会だより」の配布は、各字・自治会に委託し、全戸配布及び早期配布に努めています。また町内商業施設等（コンビニ、銀行、病院等）にも「議会だより」を配置することで、より多くの町民への情報共有に努めています。 ・広報誌の配布は各字・自治体に委託し、全戸配布に努めています。また、商業施設等に配置することで入手機会の充実を図っています。	①順調に進行	①・「議会だより」により町民に議会での活動内容を迅速に伝え、町議会、行政に対して興味関心を持っていたけるよう努めました。 ・広報誌が行き渡っていない世帯もあり、当事者より連絡があった際に各字・自治体へ対応依頼をしています。	①・引き続き「議会だより」の全戸配布に努めるとともに、様々な議会情報を分かりやすく、速やかに発信できるよう努めます。 ・広報誌の全戸配布など、町の情報を全町民に共有できる環境に努めます。
			②町の情報発信については、ホームページの情報の充実を図るとともに、新たな情報発信のあり方について町民参加型の幅広い検討を行い、実施に向けた取組に努めます。また、情報の入手に困難を抱える人でも行政情報が得られるよう、点字や声の広報など、様々な媒体を活用します。							②・町の公式LINEを活用し、ホームページと並行して情報発信を行いました。また、町の広報は音訳サークルたんぼによって、音訳・録音され、視覚障がい者宅に届けています。 ・ホームページについては、更なる充実を図るためリニューアル作業を進めています。 ・町で策定している計画関係について、住民等が自由に取得し加工できるようオープンデータ化を推進しました。	②一部進行	②・ホームページのリニューアルを進めていましたが、調整に時間がかかり令和5年度内で終わることができませんでした。 ・新規で策定した計画等をホームページに掲載する際は、可能な限りオープンデータとして活用できるよう各課に周知し、掲載することができました。	②・ホームページのリニューアルについて、他部署と連携を図りながら、住民にとって利用しやすいホームページになるよう取り組みます。 ・すべての人に町の情報が伝わるよう、今後も情報発信の充実にも努めます。
		(2)町民ニーズを把握するための広聴制度の充実	①行政懇談会や議会報告会等については、開催場所や開催方法など創意工夫するとともに、インターネット配信を取り入れるなど効果的な運営に努めます。	議会事務局・総務課・保健福祉課	議会報告会平均参加者数	書面開催	30人	80人	37.5%	①・議会報告会について、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度から令和4年度まではホームページ上での書面開催でしたが、令和5年度に4年振りに開催することができました。 ・行政懇談会について、令和4年度は東新川、5年度は宮平ハイツで開催し、東新川は17人、宮平ハイツは19人の参加がありました。懇談会では様々な要望等について意見交換し、町民ニーズの把握に努めました。	①順調に進行	①・議会報告会は継続的な事業展開にしているため、より参加しやすく、意見を出しやすい開催方法等について随時検討を行います。 ・行政懇談会については、開催を要望する高字と参加者が少ないため、より多くの町民が参加してもらえるような取り組みを検討します。	①・議会報告会は町民が直接参加できる場となっているため、より参加しやすく、意見を出しやすい開催方法等について随時検討を行います。 ・行政懇談会については、開催を要望する高字と参加者が少ないため、より多くの町民が参加してもらえるような取り組みを検討します。
			②各種委員会やパブリックコメント制度、町政提案箱などを活用して、誰もが意見を言える町民参加の仕組みづくりの充実を図ります。		行政懇談会等への参加人数	(未実施)	19人	200人	9.5%	②・まちメールを活用し、庁舎内に設置している町政提案箱やインターネット経由で届いたご意見・ご要望について集約し、各担当部署で早期対応に務めました。また、より意見しやすい環境づくりのため、町公式LINEから直接意見提案できるよう設定しました。 ・令和5年度「第10次南風原町高齢者保健福祉計画」及び「第6次南風原町障がい者計画・南風原町第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画」の策定の際、パブリックコメントを実施し広く町民の意見を募集しました。 ・各種委員会に公募委員を募集したり、計画策定においてパブリックコメント制度を活用し情報共有を図るとともに町民参加の充実を図りました。	①順調に進行	②・町民からのご意見・ご要望に対し、改善に努めることができました。 ・両計画ともパブリックコメントを実施し、障がい者計画等には意見が寄せられ、町ホームページで公表を行いました。 ・パブリックコメント制度を活用し、広く意見を募集し、町民参加による仕組みづくりを図ることができました。	②・公民館やちむぐくる館にも町政提案箱を設置するなど広く町民の意見を取り入れ、町民参画の仕組みづくりに努めます。 ・今後も計画等策定の際は、引き続きパブリックコメントを実施し、広く町民から意見を拝聴したい。 ・公募委員への応募やパブリックコメントに提案する人が少ないため、幅広い町民からの意見を募集するための手法について検討します。
		(3)情報化の推進	①SNSの進展に対応した携帯端末向けサービスなど、情報発信の充実を図ります。	総務課・企画財政課・住民環境課・税務課・会計課・産業振興課・保健福祉課・まちづくり振興課・都市整備課	-	-	-	-	-	①・町公式LINEを活用し、情報発信に取り組みました。 ・マイナンバーカード利用方法のYouTube配信など情報発信を行いました。 ・住宅リフォーム募集の周知活動や、南風原町交通基本計画のパブリックコメント等を実施した際に、町公式LINEを活用して周知を行いました。 ・黄金森公園屋内運動施設基本計画住民説明会の開催について、町公式LINEを活用して周知を行いました。 ・はえるんのSNSを活用し、イベントの告知や観光情報を発信しました。	①順調に進行	①・防災や検診等、町民に必要な情報発信に取り組むことはできましたが、町公式LINE登録者数が令和6年3月末現在で、3,579件となっており、登録件数を増やす取り組みが必要となっています。 ・住宅リフォームと南風原町交通基本計画において町の公式LINEで募集の周知活動を行うことができました。 ・黄金森公園屋内運動施設基本計画住民説明会の開催について、町公式LINEで周知活動を行うことができました。 ・SNSを活用することで、新鮮な情報を発信することができました。	①・引き続き利用者へ町公式LINEを活用した情報発信を行うとともに、LINE登録者を増やす取り組みも進めていきます。 ・今後も町民目線で様々な情報をわかりやすく発信して住民サービスの充実を図る。 ・住宅リフォームの募集活動を実施することができたが、計画等の周知、啓蒙活動があまりできていないので、SNS等を活用して町民に周知していく必要があります。 ・引き続き、SNS等を活用し町民への周知に取り組みます。
			②自治体DXを推進し、行政手続等の利便性の向上、電子申請の充実及びマイナンバーカードの普及を図ります。							②・マイナンバーカードを使用した罹災証明申請手続きの電子化に取り組みました。 ・転出(転居)電子申請令和4:47件 令和5:130件 パスポート電子申請令和5:18件実施しました。 ・家屋滅失届についてオンラインによる届出が出来るよう取り組みました。 ・高齢者対象の「ちゃーがんじゅう元気プロジェクト」、ペアレントプログラムの申込みについてLogoフォームで行えるようにしました。 ・令和5年度より障がい福祉の窓口申請を電子で行えるようDX班と連携し検討を進めています。 ・道路占用、法定外公共物及び道路施行承認の申請について、電子申請出来る環境を整備しました。	①順調に進行	②・マイナンバーカード所有者の利便性向上につなげることができました。 ・制度改正に伴い転出(転居)やパスポート申請が電子できるようになりました。 ・Logoフォームによりオンライン申請が出来る環境を整備し、行政手続の利便性向上を図りました。 ・当課への来庁者は高齢者や障がい者が多いため、デジタルデバйдも考慮しながら町民利便性向上に取り組んでいます。 ・申請に係る手続きを電子申請で行え	②・今後も行政手続きのオンライン化に取り組んでいきます。 ・各種手続の電子化を進めつつ、スマートフォンやパソコン等を持っていない方の利便性向上も合わせて検討することが課題となっています。 ・オンライン申請の認知度が今後の課題であるため、町の広報誌等により周知を図っていきます。 ・他自治体や先進事例について調査・研究しながら町民利便性向上に取り組んでいきます。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
										・マイナポータル、Logoフォームを活用した、行政手続き等のオンライン申請に取り組みました。		るよう、さらなる取り組みが必要となっています。 ・マイナポータル 27 手続きを始め、Logoフォームの申請フォーム数も前年度から大幅に件数を増やすことができました。	
			③公文書の電子化やオープンデータの充実を図り、様々な媒体による情報公開を図ります。							③・地域防災計画のオープンデータ化に取り組みました。 ・令和5年度第3次南風原町一般廃棄物処理基本計画のオープンデータによる情報公開を実施しました。 ・公金等振込状況を各事業所向けに町ホームページにて閲覧可能としています。(各事業所はIDとパスワードを入力することによって閲覧可能となっています) ・地域・年齢別人口など9つのデータをオープンデータとして町ホームページに掲載しました。 また、各種計画等においてもオープンデータ形式での公開に取り組みました。	①順調に進行	③・地域防災計画のオープンデータ化に取り組みました。 ・令和5年度第3次南風原町一般廃棄物処理基本計画のオープンデータを町ホームページで公開しました。 ・公金等振込状況を各事業所向けに町ホームページにて公開することにより、町からの支払内容及び振込日等、町と取引を行う事業所にとって必要な情報の提供を行っています。 ・町が保有するデータや各種計画等をオープンデータとして公開しましたが、公開レベル(5スターオープンデータ)の第1～第2段階のデータもあったため、今後は第3段階のフォーマットでデータ公開に取り組みます。	
			④電子申請やマイナンバーカード等の情報セキュリティ対策の強化を図ります。							④・転出(転居)電子申請やパスポート電子申請を実施し各種電子申請の充実を図りました。 ・住民情報システムや情報提供ネットワークの利用による円滑な業務の遂行及び、住民情報の適切な管理を行う為、情報セキュリティの強化に努めました。		④・各種電子申請の充実、マイナンバーカード等の情報セキュリティ対策の強化を図りました。 ・情報セキュリティの強化や住民情報の適切な管理を行うことで、安定した業務の実施につながっています。	
			⑤住民活動や地域活動の情報化に向けた支援を図ります。							⑤・ニーズの把握ができていないため実施なし	③未実施(検討中、業務無し等)	⑤・住民活動や地域活動の情報化のニーズを把握できていないため、支援できていません。	
	2 節 自ら考え、行動し、みんなで創るまち	(1)住民自治の確立に向けた学びの場の充実と支援	①住民自治を学ぶまちづくり講演会や出前講座、学習会の開催を推進します。	企画財政課・総務課・生涯学習文化課		43 回	3 回	55 回	5.5%	①・南風原高校の3年生を対象に、8つのテーマ(1事業は東部消防)で出前講座を行いました。	①順調に進行	①・毎年継続して南風原高校へ出前講座を行うことができています。	①・各課の出前講座の内容が難しく、聞くだけだと興味を持つことができないため、講座の内容をクイズ形式にするなど、生徒も参加できるような内容に修正依頼しながら取り組んでいきます。
			②各字・自治会、各種団体が主体的に行う学習会等の活動へ支援を行います。							②・各字・自治会や児童館、学童クラブ等と連携して、防災訓練等の支援を行いました。 ・他団体が実施する地域活性化助成事業を活用し、2団体が手上げ方式により助成を受け事業を実施しました。 ・中央公民館において各字自治会が行う舞踊や料理教室等の出前講座へ講師を派遣して活動を支援しました。	①順調に進行	②・防災訓練等に向けて事前に調整を行い、スムーズな実施に寄与することができました。また訓練を通して、避難方法等の課題について地域と共有することができました。 ・手上げ方式の手法により、事業募集を周知し支援することができました。 ・中央公民館において各字自治会が行う舞踊や料理教室等の出前講座へ講師を派遣して活動を支援することができました。	②・各字・自治会において、定期的に様々な防災訓練が実施できるような支援を行っています。 ・引き続き他団体が実施する助成金を活用した活動支援を行うとともに、町独自の支援についても調査研究を行います。 ・区長会や町公民館連絡協議会において周知を図り、更なる活用と支援に向けて取り組んでいきます。
			③各種団体が行う、各分野(テーマ別)の活動実態の把握に努め、団体間の連携・関係づくりに向けた支援を行います。							③・女性団体交流会を実施し、町内の各種女性関係団体の活動状況及び課題等を共有し、女性団体協議会設置に向けた連携支援を行いました。 ・社会教育委員会による「各種団体情報交換会」を行い、各種団体の活動状況の把握に努め、行事等を通じて連携して関係づくりを行いました。	②一部進行	③各女性団体の抱える課題等が多く、団体協議会設置には至らないもの、各女性関係団体の情報交換が活発化できるよう支援します。 ・参加する団体を増やす事が課題であり、情報交換会等を通じて各種団体との関係構築を図っていきます。 ・令和6年1月に行った「ふるさと発見ウォーク」において、町観光協会・町女性会等と役割を分担して事業を行い、連携して関係づくりを図ることができました。	③・これからも各分野のテーマにおいて各団体の課題等を把握し、情報交換や交流活動が活発化できるよう支援します。 ・参加する団体を増やす事が課題であり、情報交換会等を通じて各種団体との関係構築を図っていきます。
		(2)住民自治の担い手の発掘・育成	①各字・自治会をはじめとする各種団体組織と連携し、住民自治の担い手の発掘と育成を図ります。また自治会未加入者をはじめ、これまで地域活	生涯学習文化課	-	-	-	-	-	①・社会教育委員による各字自治会訪問において、情報交換や他自治会の情報提供等を行う事により、行事等を通じた取組による各自治会の担い手の発掘と育成につなげました。	③未実施(検討中、業務無し等)	①・年間5自治会を訪問していますが、各自治会においては社会情勢の変化により行事内容を見直す等の工夫を凝らしています。	①・各字自治会における社会教育団体等の活性化が課題であり、今後も人材の発掘と育成に向けて自治会訪問の実施に努めています。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			動等へ参加したことがない方についても、積極的に住民自治に関わるよう人材の発掘と育成を図ります。 ②子どもの頃から住民自治が身近に感じられるような活動の手法について検討します。							②・町子ども会やジュニアリーダーが行う行事や研修等の中で活動について検討しました。	③未実施(検討中、業務無し等)	②・地域ボランティア活動等の参画により活動は行いましたが、町子ども会などの組織の活動が停滞気味であり、範囲が限定的となっています。	②・今後も町子ども会やジュニアリーダーの活動を通じて取り組むと共に、町子ども会などの組織活動活性化にも努めていきます。
		(3)多様な人材の積極的活用	①既存事業や関連事業の枠組みを活用し、適材適所での積極的な活用を推進します。 ②町内の豊富な経験や知識を有する多様な人材については、人材バンク等の充実を図り、新たな活用の場の可能性を調査研究し、適材適所での活用を図ります。 ③男女共同参画推進会議委員等と連携し、政策・意思決定過程における女性の参画を推進します。	企画財政課・生涯学習文化課	人材バンク等登録者数(学校応援隊はえばるボランティア登録者数)	2,266 人	1,362 人	2,700 人	50.4%	①・「はえばる大学」において、多様な人材を講師として活用することができました。 ②・「地域学校協働活動推進事業」で住民の方にボランティアで協力をいただき、個人の経験や知識を活かすことができました。 令和4年度実績:延べ人数 1,281 人 令和5年度実績:延べ人数 1,362 人 ③・男女共同参画週間等を活用して女性の参画について周知を図りました。各種審議会や委員会等の委員への女性登用に努めました。また、男女共同参画推進会議を開催し、まじゅんプラン(男女共同参画計画)の進捗状況について委員と意見交換を行いました。	①順調に進行 ①順調に進行 ①順調に進行	①・はえばる大学において、町職員や町社協職員を交通部門及び福祉部門において活用することができました。 ②・各学校からの要望に応じて人材を派遣することができました。 ③・まじゅんプラン(男女共同参画計画)の進捗状況について、委員から意見を聞くことができました。	①・「はえばる大学」における内容等が課題となりますが、行政視点とならないよう講師の確保等に取り組んでいきます。 ②・「地域学校協働活動推進事業」はボランティアとなっているため、人材の確保が課題となっています。今後の取り組みとして、やりがいを感じて続けてもらえるよう学校と工夫しながら取り組んでいきます。 ③・引き続きまじゅんプラン(男女共同参画計画)の周知を図り、女性が参画しやすい環境づくりを構築します。
		(4)自治会加入の促進	①自治会活動や自治会が取り組む加入促進のための施策づくりを支援するため、区長・自治会長と連携を図っていきます。また、転入時における働きかけなど、自治会に加入しやすい環境をつくります。 ②自治会加入促進の施策づくりに向けて、町内の自治会活動の実態と動向について調査研究し、加入促進に関する情報共有や町民へ自治会の取組について紹介するなど、自治会加入率向上を支援します。	総務課	-	-	-	-	-	①・月2回開催している区長会において、各自治会の課題を共有し、意見交換を行うことで課題解決を図りました。また住民環境課の窓口で転入者に対し、自治会加入促進のパンフレットの配布を行い、自治会のことを知ってもらうことで加入しやすい環境作りに努めました。 ②・各自治会の紹介ページを町ホームページに掲載し、各自治会の情報発信を行いました。また同ページに自治会加入促進のパンフレットを掲載することで、加入促進を促しました。	①順調に進行 ②一部進行	①・各自治会への加入促進をさらに促していくため、新たな取り組みが必要となっています。 ②・自治会加入率については、年々減少傾向にあるため取り組みの検証が必要となっています。	①・自治会加入促進の取り組みについて、他自治体の事例等も参考にしながら、今後も継続して取り組んでいきます。 ②・自治会加入率を向上させる新たな取り組みについて調査・研究を行っていきます。
		(5)協働のまちづくりの実践	①町内における協働のまちづくりの現状を調査し、その活動内容や意義について情報共有を図るための取組を推進します。 ②様々な形で町政に関する活動に携わっている関係者等で構成する「協働のまちづくり推進組織」の必要性も検討し、更なる参画・協働のまちづくりを推進します。また、子どもたちや若者がまちづくりに参加しやすい環境づくりに努めます。 ③はえばる大学、出前講座等を通じて、自ら考え行動する住民を育成します。	企画財政課・産業振興課・保健福祉課・まちづくり振興課・生涯学習文化課	地域に愛着を感じる町民の割合	82%	-	85.1%	-	①・各種計画策定において、説明会、アンケート調査、パブリックコメント等を実施し、広く町民の意見を聴取しました。 ②・各種計画策定において、説明会、アンケート調査、パブリックコメント等を実施し、広く町民の意見を聴取しました。	②一部進行 ②一部進行	①・説明会、アンケート調査、パブリックコメント等の実施により町民がまちづくりに参画する機会を提供できました。 ②・説明会、アンケート調査、パブリックコメント等の実施により町民がまちづくりに参画する機会を提供できました。	①・今後も町の重要な計画等を策定する際は、説明会、アンケート調査、パブリックコメント等の実施により町民がまちづくりに参画する機会を提供していく。 ②協働のまちづくり推進組織については、先進事例の調査をおこなうとともに、町に合った協働のまちづくりを推進します。
					手上げ方式による事業実施団体数	延べ2 件	4	延べ10 件 (年2 件)	40%	③・はえばる大学では、第5次南風原町総合計画の説明を行いました。また出前講座においては、南風原高校で3年生を対象に令和4・5年合わせて12 講座(同講座抜き)を行い、協働のまちづくりの推進に取り組みました。 ・令和4年度:南風原高校への出前講座「障がいってなんだろう」を実施し講師に同校卒業生で聴覚障がいを持った方に実体験を含めた講座を実施していただきました。また町内3小学校にて4年生を対象に認知症サポーター養成講座を実施しています。令和5年度:在宅医療・介護連携事業の中で住民向け救急搬送等に関する講座を開催しました。 ・はえばる大学の講師として都市マスタープランの説明と南風原町交通基本計画の説明を実施しました。また、神里地区と南風原高校において都市マスタープランの出前講座を実施しています。 ・はえばる大学運営事業で南風原町の歴史や文化・まちづくりについて、町内巡りや関連する方からの講話により学習を行いました。 令和4年度:19名参加、令和5年度9名参加	①順調に進行	③・「はえばる大学」「出前講座」ともに各課と調整し実施することができました。 ・学校等からの依頼により各種講座に明するのではなく少しかみ砕いて分かりやすく講義できるよう取り組みます。「出前講座」についても、対象が高校生であるため、講座を行う担当課と調整し、生徒が参加しやすいような内容で説明してもらえるよう町民に対して事業内容の説明をするこができており、町民が自ら考え行動できるように環境の整備を行っています。 ・はえばる大学のテーマはその年ごとに違いますが、講座を通して住民の意識向上につながっています。	③・「はえばる大学」の講座は、「総合計画」や「まちづくり基本条例」の内容となっており、理解するのが難しいため、そのまま説明するのではなく少しかみ砕いて分かりやすく講義できるよう取り組みます。「出前講座」についても、対象が高校生であるため、講座を行う担当課と調整し、生徒が参加しやすいような内容で説明してもらえるよう町民に対して事業内容の説明をするこができており、町民が自ら考え行動できるように環境の整備を行っています。 ・はえばる大学のテーマはその年ごとに違いますが、講座を通して住民の意識向上につながっています。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
													等についても検討していきます。
2 きらきらと輝く人が育つまち(教育・文化)	1 節 安らぎと豊かな人間関係、生きる力を育む、家庭教育	(1)家庭教育の重要性の周知	①子どもの基本的な生活習慣、基本的倫理観、自立心を身につける上で重要な役割を担う家庭環境について周知を図ります。	教育総務課・学校教育課・生涯学習文化課	家庭教育に関する講座数	3回	7回	10回	70%	①・「幼児の日常生活の質を高める家庭での取り組み」のポスターを作成し、幼稚園および保育所等へ配布を行い周知を図りました。 ・基本的倫理観の確立を図る観点から家庭教育講習会「ネットいじめ・依存防止の解決のヒント」を開催しました。	①順調に進行	①・基本的な生活週間について、家庭とも共有を図ることができました。 ・保護者・学校関係者・家庭教育に関心のある方が対象でしたが、参加者数が少なく、開催時期や周知方法に工夫が必要となっています。	①・今後も家庭教育の重要性について周知していきます。 ・内容の精選や学校単位・小中別での開催などを工夫して取り組んでいきます。
			②家庭・学校・行政等が協働し、子どもの自己肯定感を高める関わり方、生きる力を育むための支援を進めていきます。							②・学力向上に係る取り組みで他の模範となる児童・生徒を教育長表彰することで意欲的な取り組みの充実を図りました。 ・家庭教育をテーマとした公民館講座において、子ども三味線教室や子供獅子舞講座・親子バルーンアート講座など7回の講座を行いました。	①順調に進行	②・教育長表彰することで、児童生徒の自己肯定感を高めることができました。 ・各字公民館出前講座において地域の伝統芸能に関する講座が開催できました。	②・引き続き子どもたちの自己肯定感を高められるよう支援していきます。 ・家庭教育分野における講座選定において、社会情勢やニーズを把握して取り組んでいきます。
			③「早おき・朝ごはん・徒歩登校・適度な運動・家庭学習・早ね」など基本的な生活習慣の定着に向けた各種活動を推進します。							③・町体力テストや、新春マラソン大会など、家族で参加することができるイベントを開催し、子どもが気軽に参加できる運動の機会を創出しました。 ・南風原町学力向上推進委員会において「そろえる実践」や「かすりっ子学習のきまり」等で共通認識を図り実践しています。	①順調に進行	③・体力テストについては、子どもが参加しやすいように、レクリエーションのスペースを設けたり、新春マラソン大会では、未就学児も参加できる部門を新たに作り、子どもが参加しやすい環境を整えることができました。 ・南風原町学力向上推進委員会が推進する「かすりっ子のきまり」等について、町全体で実践することができました。	③・各家庭の子どもを含めた家族での参加が増えるように会場・時期・PR 方法など工夫しながら実施していきます。 ・支部 PTA との連携を強化し基本的な生活習慣の定着を浸透させていきます。
			④子どもがインターネットやICT 環境等のツールを通じた犯罪に巻き込まれないよう、またいじめの被害者にも加害者にもならないよう、情報端末等の利用を通じた危険性や安全に利用するための知識、家庭内の利用ルールの重要性や人権意識の高揚について学校等と連携しながら周知を図ります。							④・携帯電話を通してインターネットを利用する機会が増えていることから、情報リテラシーや人権教育について委託事業者や外部講師を招いて講演会等を行いました。	①順調に進行	④・委託事業者や外部講師を活用して講演会等を行い、児童生徒の情報リテラシー向上を図ることができました。	④・情報モラルに関する教育は児童生徒だけでなく、保護者においても必要なことから広く発信できる方法などを検討し事業を進めています。
		(2)家庭教育を考える機会の充実	①PTA 活動、地域活動、学校行事等を通じ、家庭教育の大切さや家庭教育の役割等に関する情報提供を行います。	生涯学習文化課・こども課・学校教育課・生涯学習文化課	家庭教育に関する講座の参加者数	36人	67人	150人	44.7%	①・PTA の親子集会や役員研修会、授業等で性教育等の家庭向けの講演会を行いました。 ・家庭教育の大切さや役割を認識する機会の提供を目的として、各学校 PTA が行う家庭教育学級の活動支援を行いました。	①順調に進行	①・講演会を実施し、保護者に向けて情報提供を行うことができました。 ・各学校 PTA により、家庭教育の大切さに関する多様な研修を行い、子どもが学ぶ機会を提供を目的として、各学校 PTA の「生きる力」を育む家庭教育の推進に貢献しました。	①・今後も継続して PTA と連携し情報提供・共有に取り組んで行きます。 ・今後も家庭教育の大切さや役割を認識する機会を提供を目的として、各学校 PTA が行う家庭教育学級の活動支援を行い、その推進を図っていきます。
			②公民館講座等を通じて、いつでも、どこでも、誰でも学べる環境づくりをさらに充実させます。また、保育所、幼稚園などの公共拠点施設と連携し幼少期から家庭教育の大切さを学ぶ機会の充実を図ります。							②・公民館講座の充実を図ることにより、親子で参加し、絆を深めながら、家庭でのコミュニケーションを図り、社会的な自立である、生きる力を養うことができました。 ・保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。	①順調に進行	②・公民館講座は、家庭教育の役割を大きく担っており、今後も多くの講座を設けることにより、誰でも学べる環境づくりをさらに充実させ、地域の中核的な役割も活かしながら進めていく。 ・保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。	②・各自治公民館と情報交換を行い、中央公民館としての役割を十分に果たすよう地域と連携しながら取り組んでいきます。 ・子育てに関して、多様な意見が存在することから、保護者との連携を意識しつつ、保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。
			③社会の一員となるための基本的資質や能力を養うなど、子どもの「生きる力」を育む家庭教育を推進します。							③・保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。 ・親子共同活動や親子のふれあいを通じた家庭教育の大切さを認識する観点からブックスタート事業及び親子工作会を行いました。	①順調に進行	③・保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。 ・毎月1回第1水曜日を基本として幼児の7か月検診の会場でブックスタートを開催し、又、町立図書館において夏休み親子工作会を開催しました。	③・子育てに関して、多様な意見が存在することから、保護者との連携を意識しつつ、保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。 ・今後も親子共同活動や親子のふれあいを通じた家庭教育の大切さを認識する観点から、ブックスタート事業や親子工作会に取り組めます。
	2 節 地域に学び、地域を愛する、を育む、ふるさと教育	(1)平和学習及び歴史学習の推進	①南風原文化センターや沖縄陸軍病院南風原壕群を学習拠点としての活用、歴史資料のデータベースなどを通じた町の歴史文化・平和学習の充実を図ります。また、オンラインで展示物を見学できる仕組みも検討します。	生涯学習文化課	南風原文化センターの来館者数	3,856人	16,828人	28,000人	60.1%	①・子ども平和学習交流事業や文化センター企画展と関連づけた平和講座等を行いました。また、文化センターの所蔵資料をオンラインで見ることができるよう、データベースを導入し、オンライン化に向けたシステム構築を行いました。	①順調に進行	①・各展示やイベントにおいて、令和4年度(3,729人)・令和5年度(2,325人)の参加がありました。見学者数においては、新型コロナの影響が解消され令和3年度(904人)から令和5年度(6,363人)と増加傾向にあります。	①・オンラインでの資料公開活用を含め、歴史文化・平和学習等において新たな学び方を工夫した文化センター・陸軍病院壕の活用を検討していきます。
			②壕や文化財の地域案内人の育成、平和や歴史等に関する活動を支援します。							②・毎年度平和ガイド養成講座を行い新規ガイドを育成することができました。 令和4年度:5人、令和5年度:6人	②一部進行	②・平和ガイド養成講座において、令和4年度(5人)、令和5年度(6人)の新規ガイドを育成しています。	②・平和ガイドに高齢者の占める割合が多くなっており、若い世代の養成講座受講者の確保が必要となっています。
			③戦争体験者の高齢化を踏まえ、証言、体験談、資料の収集及び記録保存							③・他自治体や団体等と連携し、沖縄戦や平和について情報収集を行うことができました。	②一部進行	③・他自治体等と情報共有できるよう、様々なイベント等において連携して	③・これまで同様、他自治体や団体との連携を行っていきます。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			等を推進します。									ます。	
		(2)国際交流の推進	①海外友好都市との交流の充実、ウチナーンチュ大会の活用等、本町から世界へ移民した方々とのネットワークと交流活動の充実を図ります。また、交流の実施に当たっては、リモート交流会等のオンライン活用も視野に入れて取り組みます。 ②海外との交流促進、関係機関等と連携した国際交流など国際的な視野を持った人材育成を図ります。 ③町内在住の外国人の方との身近な交流を通して、それぞれの文化や生活習慣、価値観などを紹介するなどして、相互理解と国際理解を深める機会を推進します。	企画財政課・生涯学習文化課	-	-	-	-	-	①・令和5年度にカナダレスブリッジ市との友好都市締結20周年を迎えたことから、今後の更なる相互交流に向けた記念事業を行うことができないか調整を行いました。 ・令和5年度にブラジルから研修生1人の研修生を受け入れ、空手・三線等の研修で文化交流を図りました。また、世界のウチナーンチュ大会(はえばる交流会)やその他のイベントを通して、町民との交流を図ることができました。 ②・青少年国際交流事業について令和4年度はコロナウイルス感染症の影響により中止。令和5年度はアメリカ合衆国ハワイ州ホノルルに中学生を10名派遣し、現地の学校への体験入学やホームステイ等の国際交流事業を実施しました。 ③・町内に在住する外国人を集めた交流会等、相互理解と国際交流を深めることが行えなかった。	①順調に進行 ①順調に進行 ③未実施(検討中、業務無し等)	①・令和6年度の事業実施に向けて、関係者と調整を行うことができました。 ②・国際交流事業に参加した生徒全員が、事業に参加して国際的視野が広がったと答えており、英語等の学習意欲の高まりもアンケート等から把握できた。国際化社会に対応する人材の育成に寄与できていると考えいます。 ③・町内在住の外国人を集めた交流会等を行うことができませんでした。	①・令和6年度の記念事業開催に向けて関係者と協議しながら取り組みます。 ②・研修後に、ジュニアリーダー、国際交流OB会及びボランティアとして地域活動に貢献できる人材の育成を図っていきます。 ③・町内に在住する外国人を集めた交流会等を開催し、文化や生活習慣・価値観などを紹介して相互理解と国際交流を深める取組を検討していきます。
		(3)学び・体験・交流の場や機会の充実	①住民のニーズに応え、南風原大学等、テーマごとにその分野の専門家から学ぶことができる講座の実施など、町民が学び・体験・交流できる機会の更なる充実を図ります。 ②高齢者等の持つ知識や技術、経験を次世代に受け継ぐ世代間交流の充実を図ります。 ③町立図書館における電子図書の充実や読み聞かせ会の実施など、町民の読書ニーズに応えるため図書館機能の拡充を図ります。	生涯学習文化課	はえばる大学受講者数	10人 (延べ39人)	9人 (延べ67人)	20人 (延べ80人)	45% (83.8%)	①・はえばる大学運営事業で南風原町の歴史や文化・まちづくりについて、町内巡りや関連する方からの講話により学習を行いました。 令和4年度:19名参加、令和5年度:9名参加 ②・「地域学校協働本部事業」において、高齢者の技術や体験を次世代へ受け継ぐと共に世代間交流に取り組みました。 ③・一般の利用者及び町内小中学校全生徒・教職員が電子図書館を利用できる環境を整備しています。また町立図書館内においても読み聞かせや各種企画展示を実施し図書館機能を充実させています。	①順調に進行 ①順調に進行 ①順調に進行	①・はえばる大学のテーマはその年ごとに違いますが、講座を通して町民の学びの機会を創出することにつながっています。 ②・小中学校において、「昔遊び」におけるものづくりの技術及び体験講話の継承を通じて世代間交流が行われていきます。 ③・電子図書館利用率において、同じ業者の電子図書館システムを導入した全国約300の図書館の中で人口千人あたりの貸出数が令和4年度は全国5位、令和5年度は全国4位と上位の利用率を誇っており、学校を中心によく利用されています。また、毎月の読み聞かせについても多くの利用者が参加しており、利用されています。	①・はえばる大学だけではなく、町民が学び・体験・交流できる機会の創出に向けて、近隣市町村の状況等の確認も含め進めていきます。 ②・「地域学校協働本部事業」だけでなく、子ども会と老人クラブ等の交流について検討していきます。 ③・町内小中学校において電子図書館をよく利用していただいています。一般の方の利用が学生に比べると低いため、周知を図っていく必要があります。今後とも来館型と非来館型を併用したハイブリット図書館を整備していきます。
		(4)文化・芸能・芸術等の保全、継承、活用	①文化財の調査を行い、保存並びに適切な管理と活用を図ります。 ②文化の発信拠点として南風原文化センターの利用を促進するとともに、町文化協会や各字・自治会、関係機関と連携し、町民が気軽に文化に触れる機会の創出を図ります。 ③歴史や文化に関する講座の開催や、町内小・中学校で伝統文化に触れる機会の創出によって町民の地域文化に関する意識啓発を図るとともに、後継者の発掘・養成を図ります。 ④観光振興や伝統芸能などと連携し、伝統芸能等を発表する場を創出し、地域の文化・伝統・芸能の継承と魅力の向上を図ります。	生涯学習文化課	-	-	-	-	-	①・不定期ですが、調査活動を行い保存管理における修繕等を行っています。 ②・文化センターの企画展をはじめ他イベント等において、関係者(団体)とともに協力しながら事業を実施し、無形民俗文化復活上演等を行うことができました。 ③・文化講座や各学校への出前講座にて、歴史文化に関する講座を行いました。 ④・各自治会や観光協会・文化協会と連携し、地元の伝統芸能を発表する場として、芸能交流会等の事業を開催しました。	②一部進行 ①順調に進行 ①順調に進行 ①順調に進行	①・各有形文化財の説明板の改修等を行うことで、適切な管理・活用に繋がっていきます。 ②・文化センターの企画展等イベントを行い、町民が文化に触れる機会を作ることができています。 ③・小中学校や南風原高等学校などで出前講座を行っています。 ④・令和4年度に国立劇場、令和5年度にはえばるふるさと博覧会の会場において、芸能交流会を行い、各自治会の芸能を発表し熟練者から若者まで一緒に作った事業を開催し、文化の継承に繋がっていくことができました。	①・今後も継続して調査・情報収集を行い文化財の保全・活用に努めていきます。 ②・各自治会や小中学校及び文化協会等の団体と連携し、歴史文化等が身近に感じることができる環境づくりに努めていきます。 ③・今後も各講座や学習会等を開催し、文化の継承に努めていきます。 ④・各自治会が保有している郷土芸能を発表できる場を設け継承に努めていきます。
		(5)スポーツ・レクリエーションの振興	①黄金森公園陸上競技場及び学校体育施設等を活用し、各種スポーツ大会や教室の開催など、スポーツ・レクリエーション活動の振興を図ります。また、障がいの有無や年齢に関わらず全ての町民がスポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりを推進します。 ②黄金森公園陸上競技場の環境を活用し、町観光協会等と連携してプロス	都市整備課・教育総務課	スポーツ施設の利用者数	63,850人	77,881人	100,000人	77.9%	①・町体協による各競技・町陸上、教育委員会主催によるシニアスポーツ大会・新春マラソンなど、各種スポーツ大会を開催することができました。また、各種団体による町長杯等の大会開催について支援することができました。	①順調に進行	①・コロナ禍以降活動が減少した団体等もあることから、各大会を開催するにあたりこれまで以上に競技関係者との調整を密に行い、連携して進めていくことが必要となっています。	①・今後も各競技団体と連携を図り、開催の可否や参加者数の増加に向けて取り組んでいきます。また、新たな競技種目での大会を開催できないか検討を行っていきます。
					スポーツキャンプ・合宿誘致件	17団体 1,695人	19団体 3,659人	20団体 1,700人	95% 215.2%	②・スポーツキャンプについて、名古屋グランパス春季キャンプ(サッカー)やホンダリヴェルタ(ソフトボール)、県外大	①順調に進行	②・継続的にキャンプを実施しているチームについて、ヒアリングを行い連携する意向、利用する際の要望や、利用後の反省	

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			スポーツチームのキャンプ誘致等を図るとともに、プロチームとの交流を通じたスポーツに関する技術力・意識の向上を図ります。 ③町内の公園を活用し、子どもから大人まで健全にスポーツが楽しめるスポーツ施設の整備・充実を図ります。		数及び利用者数					学・実業団等の陸上競技合宿などを実施できました。また、サッカー及びソフトボール教室のほか、様々な交流事業を開催することができました。 ③・黄金森公園陸上競技場では照明設備及びトラックの補修を行い、野球場では照明設備の補修を行いました。また、宮城公園テニスコートでは人工芝及びネットポスの補修を行いました。 ・各スポーツ施設(黄金森陸上競技場・野球場、テニスコート、多目的広場、各学校施設)の借用により多くの方に利用してもらうことができました。		ることでリピーターに繋がっています。新規チームに対しては、合宿後に要望等を聞き取り、施設環境をより充実させることで継続的な利用に繋げることができると考えています。	点などを踏まえ、施設環境整備も含めた受け入れ体制を充実させていくことにより、継続的な合宿利用に繋げていきます。
										②一部進行	③・スポーツ施設の補修を行うことで、使用禁止の施設を利用することができるようになりました。しかし、夜間利用ができない施設があることから、計画的な対応が必要となっています。 ・各スポーツ施設については予約受付の体制を整えることにより、効率的に貸し出しを行うことができました。またスポーツキャンプ・合宿についても可能な限り早めに日程を確認し、一般の団体への影響が少なく済むよう調整を行うことができました。	③・スポーツ施設に不具合が発生した場合、早急に修繕等を行う事で利用者への影響が小さくなるよう努めます。 ・スポーツ施設の利用については、施設の適切な維持管理に努め、利用者数を確保していきます。	
	3節 個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育	(1)豊かな心と健やかな体を育む学習内容の充実	①幼児・児童・生徒の発達段階を踏まえた総合的な教育の充実を図るとともに、幼小中連携により「南風原町学力向上推進要綱」に基づいた学力向上に取り組めます。	学校教育課	学校生活が楽しいと感じている児童生徒の割合	小学校：88.6% 中学校：82.2%	小学校：80.5% 中学校：79.2%	小学校：99% 中学校：93%	小学校：81.3% 中学校：85.2%	①・幼小中連携を通した学力向上の取組を推進するために、幼小中の統一した取組を「そろえる実践」として各園・学校における幼児児童生徒の発達段階に応じた取組を実践しました。	①順調に進行	①・そろえる実践(黙想など)など幼小中連携を通した取組を継続して実践することにより、学校生活面や学習面でも円滑な移行が行われています。	①・「そろえる実践」など基本的生活習慣の共通実践だけではなく、育みたい資質・能力である「読解力」の育成に向けた共通実践を強化していきます。
			②基礎学力の定着・向上を図るため、学力調査の実施や学習支援員、外国語指導助手等を配置し「確かな学力」の向上に取り組めます。また、すべての学習の基盤となる「読解力」の育成とキャリア教育の視点を踏まえた取組を推進します。							②・小中学校へ学習支援員12人、小学校へ英語指導助手6人、中学校へJET1人・ALT1人の配置を行いました。さらに県外の先進地市町村へ町内の幼稚園・小中学校の教諭を派遣し、「読み解く力(読解力)」の育成に取り組めました。	①順調に進行	②・学習支援員等の配置や先進地視察の研修会等を行うことで、学力向上に取り組むことができました。	②・「確かな学力」向上をめざした小中連携を推進するとともに、学習支援員等の効果的な活用に取り組んでいきます。「読み解く力(読解力)」の育成についても引き続き取り組んでいきます。
			③「わかる授業」構築のため、「町そろえる実践」を実施し、学力向上に取り組み、児童生徒同士の自治活動や人間関係づくりを重視した学級・学校づくりを推進します。また、各種研修会を通じて、教職員の資質向上を図ります。							③・教職員向けの講演会の実施や、指導主事が学校訪問を行い指導助言することで、幼児児童生徒の理解を深めたり、授業改善を図りました。	①順調に進行	③・学校訪問(指導主事)や学校支援(作業療法士の派遣)を行うことで、幼児児童生徒理解を深めることにつながり、温かい学校づくりや授業改善を推進することができました。	③・幼児児童生徒の学力向上を推進する必要性から、引き続き現状通りの取組を継続していきます。
			④ICT機器を活用し学習指導の工夫改善を図ります。							④・各学校にICT機器を整備し、わかりやすい授業を行うことで、教育の資質向上を図りました。また、ICT機器を活用した授業を支援するため、ICT支援員を1人配置しました。	①順調に進行	④・高速通信ネットワークの整備や児童生徒一人一台端末の整備など、デジタルネイティブ世代と呼ばれる子どもたちに対応しい学習環境を整えることができました。	④・ICT支援員や学校ICT機器については、今後も必要であることから継続して事業を実施していきます。
			⑤各学校と教育委員会、町社会福祉協議会との連絡会等を通して、福祉教育推進に関する情報共有を図るとともに、研修体制の構築による学校等への支援の充実強化に努めます。							⑤・福祉教育推進に関する情報共有(各学校、教育委員会、町社会福祉協議会との連絡会等)、研修体制の構築による学校等への支援の充実強化を行いました。	①順調に進行	⑤社会福祉協議会と町教育委員会の共催で児童生徒向けのボランティア研修会や、教員(新任者・中堅教諭等)向け福祉研修会を実施することができました。	⑤・多くの面で多様性の視点が必要になるとともに、共生社会の実現が必要となるため、福祉への理解と実践力に係る取組が必要となっています。
		(2)子どもたちの心身の健康づくりと安心して学ぶ環境づくり	①幼児期から地域の特徴を生かした食育を推進します。	教育総務課・子ども課・学校教育課	-	-	-	-	-	①・保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。	①順調に進行	①・保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。	①・育てに関して、多様な意見が存在することから、保護者との連携を意識しつつ、保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。
			②遊びや運動、スポーツ等を通じて心身の健康づくりや運動の習慣化を図ります。							②・町立四幼稚園5歳児・4歳児を対象に運動することの楽しさを教え運動能力を向上させ、学童期や青年期における運動機能の基礎を築くことを目的とし実施。 ・町立幼稚園5歳児・4歳児を対象に専門業者による体育遊びを行い、運動することの楽しさや運動能力向上を図りました。 令和4年:144回(4幼稚園×36回)の実技指導及び3回の講習(コロナの影響により回数減) 令和5年:144回(4幼稚園×36回)の実技指導及び8回の講習 ・保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。	①順調に進行	②・測定結果:逆上がり(令和4)44%→(令和5)54% 跳び箱(令和4)87%→(令和5)93% 体育遊びにおいて着実に運動機能が向上しています。 ・保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。	②・今後も町立幼稚園の意見を聞きながら、心身の健康づくりや運動の習慣化を図ります。 ・育てに関して、多様な意見が存在することから、保護者との連携を意識しつつ、保育指針に基づく保育を通して、子どもの成長を見守っていきます。
			③学校における相談機能を充実させるとともに、いじめや問題行動への対応、登校支援など、地域及び関係機関							③・教育相談員、特別支援相談員、心の教室相談員を各学校に配置し、学校や関係機関と連携をとりながら、不登校や児童虐待などの問題解決のために速やかに対応しまし	①順調に進行	③・不登校または不登校傾向にある児童生徒や悩みを持つ保護者に対して相善を図るため、引き続き相談員等の配置や談等の支援を行うことができました。	③・不登校の未然防止による不登校数の改善を図るため、引き続き相談員等の配置や作業療法士を学校に派遣し、学習環境等に

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			等と連携し解決に向けて取り組みます。							た。			うまく適応できない児童生徒についての教諭へ助言や研修を行い、児童生徒の多様性に対応した教育環境の構築に取り組んでいきます。
			④子どもたちが学校で安心して学ぶことができるよう、地域と連携し学校の防犯・防災体制の充実を図ります。							④・毎年1度各幼小中学校の通学路を学校側と担当課で、防犯・防災を含め危険箇所がないか確認を行い、関係機関へ連絡を行っています。	①順調に進行	④・通学路の危険箇所点検を行い関係機関と連携することで、防犯・防災体制の強化を図ることができました。	④・子どもたちが安心して学校へ通えるよう、今後も危険箇所の点検を行いながら、関係機関と連携し防犯・防災体制の充実を図っていきます。
			⑤学校周辺の安全マップの活用とともに、子どもたちが様々な危険や問題について、自ら考え対処できる危機管理能力の向上を図ります。							⑤・学校周辺の安全マップの活用、危機管理能力の向上を図った。	①順調に進行	⑤・安全マップを活用した指導や安全教育を実施することで児童生徒への教育を実施することができました。	⑤・引き続き児童生徒への教育を実施していきます。
			⑥児童生徒及び保護者を対象にした、インターネット環境における情報モラル教育等を実施します。							⑥・委託事業者や外部講師を活用した講演会を行いました。	①順調に進行	⑥・委託事業者や外部講師を活用した講演会をとおして、情報モラル教育を実施することができました。	⑥・情報モラルに関する教育は児童生徒だけでなく、保護者においても必要なことから広く発信できる方法などを検討し事業を進めていきます。
		(3)地域と育む特色ある学校づくりと開かれた学校づくり	①学校応援隊はえばる(地域ボランティア、地域コーディネーター含む)を通して、地域と連携し、地域に開かれた環境づくりを推進します。	こども課・学校教育課・生涯学習文化課	学校応援隊はえばるボランティア数	延べ 628 回	延べ 739 回	延べ 650 回	113.7%	①・社会福祉協議会と連携し、ボランティアニーズの把握や、情報収集、ボランティア養成・確保等を図っています。 ・学校応援隊はえばる(地域ボランティア、地域コーディネーター)を通して、地域住民と連携し 学校教育の充実を図ることができました。 令和4年度(活動実績):延べ 1,281 人、令和5年度(活動実績):延べ 1,362 人	②一部進行	①・コロナ禍以降取り組みが活発になりつつあり、社会福祉協議会を中心に、ボランティア養成研修等の実施を通して、福祉のまちづくりを展開しています。 ・学校応援隊はえばるについては、人材の確保が課題となっているため、やりがいを感じて続けてもらえるよう工夫しながら取り組むことができています。	①・地域福祉計画で定めるボランティアプラットフォームを通して、さらなるボランティア団体等のネットワーク形成が必要となっています。
			②教育の日に学校公開・講演会・教育長表彰等を実施し、教育に関する町民の関心と理解を一層深めるとともに、学校・家庭・地域が連携し、町民全体で教育に関する取組を推進します。							②・学校教育に対する理解と関心を深めるとともに、地域に開かれた学校教育を行うため、年2回学校公開を実施し、多くの保護者や地域の方が参観しています。また、12月には教育長表彰を実施し、教育に対する町民の関心と理解を一層深めるとともに、学校・家庭・地域が連携し、町民全体で教育に関する取り組みを推進しました。	①順調に進行	②・学校公開日の保護者・地域へのアンケートの中で教育に関する感想や意見が集まり、教育に対する地域の人たちの関心が高まっています。	②・今後の取り組みとしてコミュニティ・スクールを実施し、地域の声も反映しながら、学校・家庭・地域が一体となって連携し、教育に取り組む体制を構築していきます。
3 まちづくりの推進(健康・福祉)	1 節 生活支援	(1)ともに支え合えるまちづくりの推進	①対象者ごとに福祉を捉えるのではなく、「地域福祉」の視点をもって町民はじめ行政、町社会福祉協議会、事業所等、その他関係機関等のネットワークづくりに取り組むとともに、効果的な連携と協働による誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進します。	保健福祉課・こども課	-	-	-	-	-	①・生活支援体制整備事業において生活支援コーディネーターを2名配置し(社会福祉協議会に委託)、協議会を開催し、行政・地域・社協、社会福祉法人、民間企業、様々な事業主体による重層的な地域支え合いの体制づくりの推進及びネットワークの構築を行っています。 ・社会福祉協議会との連携を強化しています。	①順調に進行	①・生活支援コーディネーターが地域に密着し地域の支え合いの推進に努めています。 ・引き続き社会福祉協議会と連携していく必要があります。	①・地域に密着し支え合いの体制づくりを推進するためにも、より多くのネットワーク構築が必要となっています。 ・地域福祉計画を念頭に、各施策を推進していきます。
			②町民が年齢、性別、国籍の違い、障がいの有無を問わず、互いに相手を認め合い、思いやる気持ちを持つとともに、つながり(絆)のある関係づくりに相互に支えあい助け合う地域づくりを進めるため、交流活動等を推進します。							②・社会福祉協議会との連携を強化しています。	①順調に進行	②・引き続き社会福祉協議会と連携していく必要があります。	②・地域福祉計画を念頭に、各施策を推進していきます。
			③町民が自ら地域の福祉課題を知り、その解決に向けた地域福祉活動に主体的に関わるため、町民に対する福祉教育の推進及び地域社会への町民参加の仕組みづくりを推進します。また、町社会福祉協議会が実施している高齢者の社会参加促進、ボランティアの養成・確保、ボランティアセンター及びまちづくりサポートセンターの周知強化を図ります。							③・生活支援コーディネーターと共に、地域の情報交換会を開催、自らの地域のお宝発見(地域の助け合い活動)をし、地域の課題についても話し合いを行いました。 ・社会福祉協議会との連携を強化しています。	①順調に進行	③・地域の情報交換会では気づかずにいた自らの地域のお宝(地域の助け合い活動)を表彰することでそれぞれのモチベーションをあげることができました。 ・引き続き社会福祉協議会と連携していく必要があります。	③・各地域のお宝を発見し(地域の助け合い活動)モチベーションをあげつつ、課題についても話し合っていく必要があります。 ・地域福祉計画を念頭に、各施策を推進していきます。
			④地域の福祉ニーズの把握や要支援者への支援の充実を図るため、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)と各種相談窓口、福祉事業者等との連携・協力体制を構築します。							④・コミュニティソーシャルワーカーを中心に、住民への支援状況の把握など社会福祉協議会と連携し取り組んでいます。	①順調に進行	④・コミュニティソーシャルワーカーを中心に、相談窓口の設置や福祉事業者と連携・協力体制を図ることができました。	④・今後もコミュニティソーシャルワーカーとの連携を通して、支援体制の役割分担等を協議していきます。
			⑤支援が必要でも自ら声を上げることが難しい町民をより身近な地域で受け止め、民生委員・児童委員はじめ各種関係機関や各字・自治会、事業所等と連携を密にし、悩みなどを拾いあげる環境づくりを推進します。							⑤・民生委員・児童委員を対象に高齢者福祉についての勉強会を開催し、町民の相談先がどこであるか周知に努めました。 ・社会福祉協議会を中心に福祉協力員と連携し、住民の声を拾い上げる環境づくりに取り組んでいます。	①順調に進行	⑤・毎年、民生委員・児童委員を対象に勉強会を開催しており「とても勉強に難しかった」などの声がありました。 ・引き続き社会福祉協議会と連携していく必要がある。福祉協力員と連携し	⑤・支援が必要でも自ら声を上げることが難しい町民をより身近な地域で受け止めることができるよう、民生委員・児童委員はじめ各関係機関の横の連携を密にし、相談につながるよう努めていきます。 ・今後も社会福祉協議会を中心に、福祉協

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			⑥民生委員・児童委員の定数確保に向けて取り組みます。							⑥・民生委員・児童委員の定数確保に向け、広報誌や町ホームページでの周知や自治会へ出向くなど、社会福祉協議会と連携し取り組んでいます。	②一部進行	⑥・社会福祉協議会と連携し、民生委員・児童委員の活動紹介などの広報活動を行いました。定員不足の地域がありました。	⑥・責任感への負担より、なり手不足が深刻な課題となっているため、社会福祉協議会と連携し、広報や町ホームページ等で更なる周知を行っていきます。
		(2)相談対応の充実及び各種制度の周知	①各種相談業務については、地域の相談員である民生委員・児童委員をはじめ、児童家庭相談員、子育て支援センター、地域包括支援センター、町社会福祉協議会ふれあい福祉相談室及び障がい者相談を担うコミュニティソーシャルワーカー(CSW)との連携を密にし、町民にとって身近な相談機関となるよう取り組みます。また、相談業務の実施にあたっては、切れ目のない相談体制の構築、個人情報の保護に配慮した上で相談窓口間の連携に努めるとともに相談窓口の広報活動を強化します。 ②支援を必要としている方に保健・福祉・医療に関する各種制度やサービス内容を適切に伝えるため、町の窓口体制や町社会福祉協議会との連携を強化します。また、これらの情報を幅広く発信するために広報誌やインターネットなどの媒体を積極的に活用します。 ③民生委員・児童委員の担い手確保に向けて、区長・自治会長、町社会福祉協議会との連携で取組とともに、活動内容や必要性に向けて、町民への周知を図ります。 ④町民が抱える多様な福祉課題を早期把握・対応することで状況の悪化を防ぐため、町社会福祉協議会や関係機関等と連携を密にし、積極的なアウトリーチを通じた実態把握及び相談支援体制の強化を図ります。 ⑤社会的孤立に関する状況把握及び沖縄県就職・生活支援パーソナルサポートセンター南部と連携し包括的な支援を実施します。	保健福祉課・こども課	小地域福祉ネットワーク組織数	17 か所	17 か所	18 か所	94.4%	①・高齢者の相談内容は多岐にわたるため社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師、認知症施策推進員等が連携し相談対応を行っており、切れ目ない支援を行っています。 ・重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施しています。	①順調に進行	①・相談対応で各職種が連携しあっている必要サービスの案内をしています。 ・重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施しています。	①・今後も継続した連携が必要となっています。 ・今後も重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施していきます。
										②・地域包括支援センターは高齢者の総合相談窓口業務ということを町広報、ホームページ、ポスター、民生委員・児童委員の勉強会等で周知を行っています。また、令和4年度は町民ホールで、令和5年度は社協と合同で南風原イオンにてパネル展示を行いました。 ・重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施するために、広報を行っています。	①順調に進行	②・令和5年度の南風原イオンでのパネル展では多くの人に地域包括支援センターや町社会福祉協議会の案内ができました。 ・重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施するために、広報を行っています。	②・多くの人へ周知を行うため、毎年パネル展の開催を行います。 ・今後も重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施するために、広報を行います。
					民生委員・児童委員の充足率	69.7% (46 人/66 人中)	63.6%	81.5%	78%	③・社会福祉協議会と連携して取り組んでいます。	②一部進行	③・定員不足の地域があるため、民生委員・児童委員の活動紹介などを広報で行っています。	③・責任感への負担より、なり手不足の現状がある。
										④・地域包括支援センターと町社会福祉協議会で協力しあい、アウトリーチを行い実態把握に努めました。 ・重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施しています。	①順調に進行	④・介護負担を感じているが相談に行っていない人を対象に、何を必要とし、何を必要とするのかなどの実態調査を行いました。 ・重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施しています。	④・対象者のニーズを把握し、現在ある社会資源については案内することができましたが、適した事業が無い場合どのように対応するか検討が必要となっています。 ・今後も重層的な支援を基本に、包括的な相談体制を実施していきます。
										⑤・パーソナルサポートセンター南部も含め、国・県の各機関と連携しつつ取り組んでいます。	①順調に進行	⑤・パーソナルサポートセンター南部も含め、国・県の各機関と連携しつつ取り組むことができました。	⑤・今後もパーソナルサポートセンター南部も含め、国・県の各機関と連携し包括的な支援に取り組んでいきます。
		(3)ふれあい・交流・活動の場や機会の充実	①各字・自治会や町社会福祉協議会等と連携し、小地域福祉ネットワーク(各字・自治会単位)における町民福祉活動の周知並びに活動への参加促進についての広報啓発を充実します。 ②「子育てサロン」、「高齢者サロン」、「友愛訪問活動」など、町民主体の地域福祉活動の充実を図るため、人材の確保や組織体制の強化等を支援します。	保健福祉課・こども課	-	-	-	-	-	①・令和5:地域の情報交換会を開催し50名の参加がありました。また、町内商業施設内で地域包括支援センター及び町社会福祉協議会を周知する目的でパネル展及び相談会を4日間開催し、延べ600名の参加がありました。 ・社会福祉協議会により、単身高齢者や障がい者等が、近隣住民の支え合いにより、自立した生活が営めるように福祉ネットワークの実施を行いました。	①順調に進行	①・新たな取り組みとして、町民の自主活動を発表しあう地域の情報交換会を開催することができました。また、商業施設の好意により無償で敷地スペースを利用しパネル展等を開催することができました。 ・社会福祉協議会を中心に、民生委員、福祉協力員、ボランティア活動のサポート受け、福祉ネットワークの実施を行うことができました。	①・町民参加型の新しい事業を開催することができました。これをブラッシュアップしながら継続できるよう関係機関と連携し推進していきます。 ・ボランティアの高齢化や、なり手不足があります。町及び町社会福祉協議会のホームページや広報誌を活用し、取り組みを周知し広報啓発を行います。
										②・社会福祉協議会により、ちむぐくる館及び3自治会公民館で「子育てサロン」を実施。 令和4年度:実施回数99回、延べ利用人数1,100人。令和5年度:実施回数146回、延べ利用人数1,267人	①順調に進行	②・親子参加の他、サポーター連絡会を開催し、活動活性化につなげています。	②・今後は実施会場である自治会公民館など、開催場所の拡大に向けて取り組んでいます。
		(4)権利擁護等に関する制度の利用促進	①認知症や障がいなどにより判断能力が不十分な町民に対して、成年後見制度の周知強化及び町社会福祉協議会が実施する日常的金銭管理支援事業等を通して認知症や障がいがあっても安心して住み慣れた地域で暮らし続けることのできる環境づくりに努めます。また、成年後見制度利用促	総務課・保健福祉課・こども課	-	-	-	-	-	①・判断能力が不十分で金銭管理や契約ができない高齢者等への成年後見制度の周知を行いました。令和5年度に成年後見制度利用促進法に基づく中核機関の設置を行いました。	①順調に進行	①・中核機関を設置したことで権利擁護支援会議を定期的に行うことができ、専門職の意見・アドバイスを受けることで、支援の方向性が決まりやすくなっています。	①・支援者の意向ではなく、本人の意志決定が大切であることを今後研修会等でも周知していく必要があります。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			進法に基づく中核機関設置の検討を行います。										
			②高齢者、障がい者(児)、児童等への虐待及びDVの早期発見・早期対応を図るため、虐待に関する知識の普及とともに、相談窓口や通告義務について周知を図ります。							②・高齢者虐待について広報、ホームページ、民生委員・児童委員対象の勉強会等で周知を図りました。 ・事案の相談や通告の他、児童相談所、警察等の関係機関と連携し対応しています。	①順調に進行	②・周知を広く行ったことで、虐待通報の件数が増加しておりますが、その都度対応することができています。 ・事案の相談や通告の他、児童相談所、警察等の関係機関と連携し対応することができました。	
			③「人権週間」において、女性の人権、子どもの人権、障がいのある人の人権、外国人の人権などの人権啓発活動を実施し、町民一人ひとりの人権意識の向上を図ります。							③・定期的に困りごと相談会を庁舎内で実施し、実施前には広報誌や自治会の放送で呼びかけるなど町民へ周知を行いました。 ・こどもの権利、女性の権利を尊重し、孤立や虐待、困難を抱えている状況に関する児童相談、女性相談の実施を行いました。	①順調に進行	③・人権擁護委員の日や、人権週間に合わせて開催するなど順調に取り組んでいます。 ・こどもの権利、女性の権利など状況に合わせた相談会を実施することができました。	
	2節 健康づくりの推進	(1)生涯にわたって健康づくりに取り組める体制の整備	①ライフステージごとの健康課題解決に向けて民生部や教育部など各関係機関で連携し、健康の自己管理能力を高めるための体制整備を推進します。	保健福祉課・教育総務課・国保年金課	メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合	40.4%	34.6%	28%	80.9%	①・年3回の民生部と町社会福祉協議会の連携会議等や教育部局の校長会、養護教諭連絡会等を通じて妊娠期から高齢期における健康課題を共有し、解決に向けての方策について検討しました。	①順調に進行	①・各種制度等を踏まえながら、妊娠期から高齢期までの健康実態を関係者と共通認識する機会を持つことが重要となっています。	①・今後も各種制度等を踏まえながら、妊娠期から高齢期までの健康実態を経年的に捉え、関係者と共通認識できる機会を設けていきます。
			②健康づくりに効果的な身体活動・運動については、「ロコモティブシンドローム」予防知識の普及、ちむぐくる館の健康増進室の利便性向上、黄金森公園陸上競技場等の公園・スポーツ施設の活用(ウォーキング教室等)を進め、健康増進運動習慣の向上を図ります。							②・高齢者介護予防、重症化防止の観点から、地域の自主活動支援のため運動指導士を派遣する運動機能向上事業を実施。令和4年度は3地区で延べ734人、令和5年度は5地区で1,200人以上が参加。他、スイスイ水中運動教室(令和4年度418人、令和5年度553人)、ちゃーがんじゅう教室(令和4年度619人、令和5年度813人)、ノルディックウォーキング教室(令和4年度83人、令和5年度63人)、ヨガ教室(令和4年度193人、令和5年度82人)等の事業を実施しました。〔人数は全て延べ〕	①順調に進行	②・事業の参加者より、できなかったことができるようになったという声が増やしています。また、介護予防運動教室等に合った高齢者の健康状態の見える化、エビデンスに基づく事業の実施を進めていく必要があります。	②・地域の自主活動を支援し、活動地区を増やしていきます。また、介護予防運動教室等に合った高齢者の健康状態の見える化、エビデンスに基づく事業の実施を進めていく必要があります。
			③町内の各団体と連携し、イベント等を通して町民の健康づくりを促進します。							③・町体協による各競技・町陸上、教育委員会主催によるシニアスポーツ大会・新春マラソン等また、各種団体による町長杯等の大会開催など各種スポーツ大会を開催し、幅広い世代のスポーツ機会を充実させることで健康づくりを促進できました。 ・町内企業や県医師会と連携し「高血圧」に関する展示・血圧測定等を行いました。	①順調に進行	③・コロナ禍以降活動が減少した団体等もあることから、各大会を開催するにあたりこれまで以上に競技関係者との調整を密に行い、連携して進めていくことが必要となっています。 ・各種保健事業等で得られた町民の声を基に媒体等を工夫し情報発信しました。	③・今後も各競技団体と連携をはかり、開催の可否や参加者数の増加に向けて取り組んでいきます。また、新たな競技種目の大会を開催できないか検討します。 ・今後も各種保健事業等で得られた町民のニーズを踏まえ、健康情報を発信したいと思います。
		(2)予防活動の推進	①生活習慣病等の発症予防と重症化予防を進めていけるよう、特定健診及びがん検診の受診率向上を図ります。また、小・中学校、各字・自治会、老人クラブ、女性会などで生活習慣病についての講習会等を継続的に開催し、生活習慣病の予防に努めます。	国保年金課	特定健診受診率	32.8%	36.8%	60%	61.3%	①・特定健診受診率向上対策指導員を配置し健診未受診者への受診勧奨、医療機関への協力依頼等を行いました。	①順調に進行	①・微増ではありますが特定健診受診率が前年度より増加しました。	①・関係機関と連携しながら特定健診、がん検診の受診率向上に取り組めます。
			②健康的な生活習慣の確立、不適切な生活習慣の改善について、妊娠期から高齢期までの各ライフステージに対応した切れ目のない保健指導・栄養指導に努めます。							②・過去の健診履歴等も活用し、対象者の特性に合わせた保健指導・栄養指導を実施しました。	①順調に進行	②・単年度の結果のみではなく、これまでの健診履歴が見える化し実施しました。	②・妊娠期から高齢期まで切れ目のない保健指導・栄養指導が行えるよう、庁内で連携を取りながら実施します。
			③町民が健診結果等から自身の身体の状態を正しく理解することができるよう、家庭訪問や健康相談、健診結果説明会、健康教育など、多様な経路による保健指導・栄養指導の充実を図ります。							③・妊婦健診、乳幼児健診、特定健診、長寿健診等を活用し健診会場や訪問・健康教育の場を活用し保健指導・栄養指導を実施しました。	①順調に進行	③・対象者に応じて様々な資料を活用し保健指導・栄養指導を実施しました。	③・自身の身体の状態を正しく理解できるよう最新の知見も取り入れながら、各種保健事業等を活用して保健指導・栄養指導を実施していきます。
			④定期予防接種等の実施による感染症予防に努めます。							④・予防接種を実施することにより、伝染の恐れがある疾病の罹患及びまん延を予防する事ができました。	①順調に進行	④・小児の予防接種については、伝染の恐れがある疾病及びまん延の予防に努めています。高齢者の予防接種についても、希望する方が接種出来るよう、対象者への接種券発行を行っています。	④・予防接種率を高いまま維持するため、対象者への接種券の郵送の他、町広報誌や町ホームページでの情報発信を行っています。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
3 節 子ども・子育て支援の充実		(1)待機児童の解消	①新たな保育所の整備、保育所の分園や増改築・改修、保育士の確保、既存保育所定員の見直し等により、保育を必要とする需要に対して保育定員の確保を図ります。 ②小規模保育事業により、低年齢児(0歳～2歳)の受け入れ枠の確保を図ります。 ③公立幼稚園における教諭の人員確保、複数年保育の実施、土曜日の一時預かりの実施など保護者ニーズへの対応を継続して行います。 ④認定こども園については、本町の保育・教育について総合的な見地から検討します。	こども課・学校教育課	待機児童数	40人 (R3.4.1)	10人 (R5.4.1)	0人	-	①・令和4年度に第2期子ども・子育て支援事業計画の中間見直しを行い、保育定員を把握することができました。 ②・小規模保育事業6園により、低年齢児(0歳～2歳)の受け入れ枠の確保を行いました。 ③・預かり保育希望者も年々増え、利用率が90%を超えていることから保護者のニーズに応えられていると感じています。 ④・教育委員会と連携し検討を行っています。 ・本町の保育・教育について総合的な見地から検討を行っています。	①順調に進行 ①順調に進行 ①順調に進行 ②一部進行	①・第2期子ども・子育て支援事業計画の中間見直しにより、保育定員の確保につながり、待機児童は年々解消しています。 ②・小規模保育事業の年齢児(0歳～2歳)受け入れにより、待機児童解消に好影響をもたらしています。 ③・預かり保育の利用率も90%を超え、保護者ニーズに応えられています。 ④・教育委員会と連携し検討を進めていましたが、調整に時間がかかり、令和4、5年度に実施することができませんでした。 ・近隣市町村への視察等を行いました。	①・今後の取り組みとして、令和7年度からの第3期子ども・子育て支援事業計画の開始に向け、令和6年度に策定を行っていきます。 ②・今後も小規模保育事業の年齢児(0歳～2歳)受け入れを行っていきます。 ③・人員確保についての課題解消に向けて、今後も近隣市町村の待遇等の状況を確認していきます。 ④・今後の取り組みとして、令和7年度に認定こども園をスタートできるよう取り組んでいきます。 ・認定こども園化に向けて関係課と連携しながら取り組みます。
		(2)各種保育サービスの充実	①地域に暮らすすべての子育て世帯の支援を充実するため、地域子ども・子育て支援事業の各種事業について、ニーズに基づく見込み量の確保を図り、安心して子育てできる環境整備を推進します。 ②幼稚園教諭や保育士の研修、幼稚園教諭や保育士同士の交流、情報交換等を通じて、幼児期の教育・保育の質の向上を図ります。 ③子育て支援を活用し、保護者の保育ニーズに沿った子育て支援サービスの情報について提供を行います。	こども課・学校教育課	-	-	-	-	-	①・令和4年度の第2期子ども・子育て支援事業計画の中間見直しにより、ニーズ見込み量の見直しをおこない、環境整備に活かすことができました。 ②・教育委員会と連携し質の向上を図っています。 ・保幼こ小連携推進会議を開催して情報交換を図る体制づくりに取り組みました。 ③・子育て支援サービスについて広報誌及び町ホームページで情報発信を実施、また個別で通知も行っています。	①順調に進行 ①順調に進行 ①順調に進行	①・中間見直しに基づいた見込み量からの受入体制づくりを行うことができました。 ②・教育委員会と連携し、保育の質の向上を図ることができました。 ・保幼こ小連携推進会議を開催し、保育士や幼稚園教諭及び小学校教諭と情報交換を行うことで教育・保育の質の向上を図ることができました。 ③・子育て支援サービスについて、町の広報媒体のみでなく、個別通知を行うことで、より情報を必要としている方へ情報提供を行うことができました。	①・令和7年度からの第3期子ども・子育て支援事業計画により、ニーズの見込み量見直しを令和6年度から行っています。 ②・今後も教育委員会と連携し、保育の質の向上を図っていきます。 ・令和4年度はコロナ禍の影響により、十分士や幼稚園教諭及び小学校教諭と情報交換を行うことができなかったため、今後さらに連携を充実させることで教育・保育の質の向上に取り組んでいきます。 ③・今後も保護者のニーズに沿った、子育て支援サービス情報を届けられるよう取り組んでいきます。
		(3)安心して子どもを生育するための支援の充実	①各関係機関が情報を共有し、地域での子育てネットワークの構築を図ります。 ②子育て中の保護者同士の交流の場、情報交換の場として、各字公民館等での子育てサロン、保育園の子育て支援センターなどを中心に、保護者同士が交流しやすい場づくりを推進します。 ③子どもの健やかな成長を支えるため、高校生(18歳)までの医療費無料化と、医療費の自己負担分を病院で支払わずに済む制度(現物給付)を継続します。 ④子育て世帯が子どもの保育・教育、健康等のサービスに関する情報を手軽に入手できるよう、情報発信の再構築を図ります。 ⑤妊婦健診や乳幼児検診等の保健指導や栄養指導を通して、保護者の健康とともに子どもの成長、発達に応じた対応について学ぶ機会を提供し、育児不安の軽減を図ります。 ⑥町社会福祉協議会が実施しているファミリーサポートセンター事業を有効活用し、子育て支援をします。	国保年金課・こども課	子育て支援の取り組みについて満足している町民の割合	81%	-	85%	-	①・子育てに関連する機関が連携し、子育てネットワークを構築し情報共有を行っています。 ②・子育て支援拠点センターを実施し、児童及び保護者の受入を行っていますが、令和5年度後半より、保育士の確保ができず受入が困難になるケースがありました。 ③・令和4年10月よりこども医療費助成を高校生対象年齢まで拡充をしています。 ④・子育て支援サービスについて広報誌及び町ホームページで情報発信を実施しています。 ⑤・親子健康手帳発行時の面談や乳児訪問、乳幼児健診などの母子保健事業において保健指導・栄養指導を実施しました。その中で継続支援の必要な方は関連課と連携しながら不安の軽減を図りました。 ⑥・社会福祉協議会でファミリーサポートセンター事業を実施し、子育て支援に活用しています。 利用実績:令和4年度 713件、令和5年度 518件	①順調に進行 ②一部進行 ①順調に進行 ①順調に進行 ①順調に進行	①・人材不足等の課題はありますが、概ね順調に進行しています。 ②・宮平保育所だけでなく認可保育園3箇所、子育て支援拠点センターをより保育士が不足していることが課題とな実していますが、相談に来る保護者が増え、広報や町ホームページで積極的募集を行い、保育士の確保が必要となっています。 ③・沖縄県が中学生年齢までを補助対象とするなか、本町は高校生年齢までの実施を行うことができています。 ④・広報誌及び町ホームページを活用し情報発信を行うことができました。 ⑤・妊娠期から乳幼児期に切れ目なく母子保健活動を継続していくことが必要です。 ⑥・ファミリーサポートセンター事業を有効活用し、子育て支援を行うことができています。	①・今後も子育てに関連する機関と連携し取り組んでいきます。 ②・事業を実施するにあたり、産休・育休により保育士が不足していることが課題とな実しているため、広報や町ホームページで積極的募集を行い、保育士の確保が必要となっています。 ③・季節性インフルエンザ等による、医療費高騰なども踏まえた財源確保に取り組んでいます。 ④・今後も町民や庁舎内の意見を聞きながら、子育て世代が必要としている情報を把握し、発信できるよう取り組んでいきます。 ⑤・妊娠期、保護者や乳幼児の健康保持増進のために、未把握や未受診児を減らす取り組みを強化し保健指導を行っていきます。 ⑥・サポート会員として登録していても時間の調整が付かずマッチングが困難なケースもあるため、今後もサポート会員の確保が必要となっています。
		(4)子どもが安全・安心に過ごすことのできる居場所づくり	①新・放課後子ども総合プランの推進、学童クラブの充実、各字公民館等や児童館等の地域資源を活用した放課後の居場所づくり、遊び場の拡充	こども課・生涯学習文化課	-	-	-	-	-	①・児童館設備の更新、児童厚生員資格取得の奨励、学童クラブ増設により放課後の子どもたちが安全・安心に活用できる居場所の拡充を実施しました。	②一部進行	①・児童館設備の更新や、学童クラブの増設など拡充を行うことができました。	①・学童クラブ利用希望者の増加に伴い、学童クラブへ入ることができないことが課題となっているため、学童クラブの新設により待機児童の解消を図っていきます。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			により、放課後の子どもの安全・安心な居場所を確保します。 ②学童クラブについて、児童扶養手当又は母子父子医療費助成を受給しているひとり親世帯等への助成を継続して行っています。 ③退職教諭・大学生・地域の方からなる学校支援ボランティア等を活用した居場所の充実を図ります。							②・学童クラブを利用している児童扶養手当又は母子父子医療費助成を受給しているひとり親世帯等の利用料減免を実施した。 ③・児童館に大学生(教育実習生)の受け入れを行い、居場所運営の充実を図りました。 令和4年度実績:2名 ・学校支援ボランティアを活用し、各学校現場などで活躍してもらうことで居場所の充実を図ることができました。	①順調に進行	②・対象となる世帯へ遅滞なく利用料減免を行うことができました。	②・ひとり親世帯等、対象世帯への周知漏れが無いよう保育所等と連携を図っていきます。
		(5) 貧困の連鎖防止	①行政や町社会福祉協議会、関係機関、警察署、学童クラブ、NPO等と連携し、子どもの貧困及び社会的孤立防止に向け、子ども及びその家庭に対して生活指導、学習支援、食事の提供、キャリア形成、生活支援、見守りなど包括的な支援を実施します。 ②子ども元気支援員や児童厚生員、放課後児童支援員など、子どもの支援に関わる方へ研修を行い、関係機関連携を図ります。 ③児童館の新たな利活用を図ります。 ④就学援助制度における対象費目の拡充を検討します。 ⑤保護者雇用の確保に向け、関係機関との連携を図り、子どもとその世帯の支援を推進します。	子ども課・学校教育課	-	-	-	-	-	①・学童利用者で気になる世帯があれば町担当へ相談し、家庭児童相談員へ情報提供を行うなど、関係機関と連携し取り組むことができました。	①順調に進行	①・相談要否の判断など、気になる世帯の対応に苦慮することもあります。必要に応じ家庭児童相談員との連携を図ることができました。	①・相談内容についても全く違うため、関係機関及び行政内でも連携を密に行い、学連担当向け研修などの実施に努めます。
										②・放課後児童支援員向けの研修を実施し資質向上を行っています。 令和4年度:受講者数 84 人(研修科目数 27 科目(全8コース(1コース3～4科目))から受講者が選択) 令和5年度:受講者数 93 人(研修科目数 34 科目(全5コース(1コース3～9科目))から受講者が選択)	①順調に進行	②・子どもの支援充実を図るため、放課後児童支援員の研修を実施することができました。	②・今後も継続した、研修体制を実施していきます。
										③・来館児童見守りの中で違和感などの気づきを、家庭児童相談員や学校へ情報共有を行いました。また民間寄贈菓子の関連施設への配布を実施しました。 ④・より多くの生活困窮世帯を対象に援助を行いました。	①順調に進行 ①順調に進行	③・利用児童の状況に応じて家庭児童相談員や、学校へ情報提供を行うなど連携を図ることができました。 ④・年々援助割合が増加し、より多くの世帯へ援助を行うことができました。	③・中学生以上の子どもの利用促進について課題があるため、対象者の意見聴取によりニーズの掘り出しに努めます。 ④・援助金額および援助費目については他市町村や県、国の動向を踏まえて、随時見直し等を行っていきます。
										⑤・個別事案に応じた支援の実施を行っており、。実施にあたっては、関係機関との情報交換など連携を行いながら取り組んでいます。	①順調に進行	⑤・児童相談等において、生活面・経済面での支援が必要な場合、就労等の支援を実施しました。	⑤・今後も社会資源の活用や、関係機関との連携を継続し取り組んでいきます。
	4 節 障がい者(児)・高齢者支援の充実	(1) 障がい者(児)を支える体制の強化とサービスの充実	①障がい者(児)やその家族が地域で安心して暮らせるよう、多分野との連携及び気軽に相談できる相談支援体制の充実を図ります。	保健福祉課・学校教育課	障がい者就労サービス支援件数	190 件	220 件	222 件	99.1%	①・町社会福祉協議会をはじめ障がい者サービス事業所等関係機関と連携し相談業務に取り組んでいます。	①順調に進行	①・町社会福祉協議会等他分野と連携し各種相談業務に取り組めました。また、意思疎通支援事業施策推進検討会での対応も検討する必要があります。聴覚障がい者やその関係者等で行っていたが、令和5年度よりろう者と連携することで見えてきた課題を整理し、障害者福祉施策に反映させます。	①・どの分野においても人材不足により、対応がままならない状況があり、県域や広域での対応も検討する必要があります。聴覚障がい者やその関係者等で行っていたが、令和5年度よりろう者と連携することで見えてきた課題を整理し、障害者福祉施策に反映させます。
			②共生社会の実現に向けて、障害や障がい者(児)に対する理解を深めるための啓発活動、教育、交流機会の充実を図ります。							②・地域活動支援センターを活用し、利用者の創作的活動、生産活動の機会の提供等を行いました。 ・「障害者週間」にちなんだ啓発活動として、役場町民ホールでのパネル展示と町内商業施設の協力により町内障害者就労支援事業所が製作した手工芸品や花(か)弁(き)等の店舗内販売を行いました。 ・特別支援学校の児童生徒の受入れ交流機会の充実を図りました。	①順調に進行	②・障害者週間にちなんだ啓発活動に等関係者の意見も聞きながら、障がいの有無に関わらず交流できるような取り組みの検討が必要となっています。	②・町社会福祉協議会や障がい福祉事業所等関係者の意見も聞きながら、障がいの有無に関わらず交流できるような取り組みの検討が必要となっています。
			③令和 2 年度(2020)に策定した「第 5 次南風原町障がい者計画・南風原町第 6 期障がい福祉計画・南風原町第 2 期障がい児福祉計画」に基づき、地域のニーズを踏まえつつ、福祉サービスの充実を図り、各種取組を推進します。 ④障がい者(児)の社会的自立とともに、生きがいづくりにつながるよう、各関係機関と協力し療育及び教育、就労支援等に取り組めます。		障がい者(児)にとって暮らしやすいまち	57.4%	-	61%	-	③・「第5次南風原町障がい者計画・南風原町第6期障がい福祉計画・南風原町第2期障がい児福祉計画」に基づき各施策の推進に取り組みました。	①順調に進行	③・令和5年度に「第6次南風原町障がい者計画・南風原町第7期障がい福祉計画・南風原町第3期障がい児福祉計画」を策定しました。計画に基づき各種施策に取り組みます。	③・令和5年度に策定した「第6次南風原町障がい者計画・南風原町第7期障がい福祉計画・南風原町第3期障がい児福祉計画」に掲げた各施策について、各関係機関と連携しながら課題に取り組んでいきます。
		(2) 高齢者を支える体制の強化とサービスの充実	①令和 2 年度(2020)に策定した「第 9 次南風原町高齢者保健福祉計画」に基づき福祉サービスの充実を図り、各種取組を推進します。 ②高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、ニーズを踏まえた	保健福祉課	要介護認定率(要介護1～5)	12.6%	13.2%	12%	110%	①・「第9次南風原町高齢者保健福祉計画」に基づき福祉サービスの充実を図り、各種取組を推進しました。	①順調に進行	①・「第9次南風原町高齢者保健福祉計画」に基づき福祉サービスの充実を図り、各種取組を推進しました。	①・令和5年度に策定した「第 10 次南風原町高齢者保健福祉計画」に基づき福祉サービスの充実を図り、各種取組を引き続き推進していきます。
										②・「介護予防・日常生活支援総合事業」にて訪問介護や通所介護、運動教室を実施し、高齢者が住み慣れた地域で安	①順調に進行	②・手術後歩けなくなっていた高齢者が介護予防・日常生活支援総合事業の	②・個人及び事業全体を通し PDCA に沿って検証を行っていく必要があります。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
4 工夫と連携で産業が躍動するまち（産業・雇用）	1 節 南風原産品を創り伸ばす農業の振興		上で、必要となる医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されるよう地域包括ケアシステムの構築を図ります。							心して暮らせるよう包括的に取り組みました。		運動教室に通ったことで、筋力が回復し、近くのスーパーに買い物に行けるほどに回復しました。	
			③認知症の予防と適時、適切な医療・介護等へつなげられるよう体制を整えます。認知症を正しく理解し、認知症の方や家族を温かい目で見守る地域づくりのための普及・啓発に取り組みます。							③・認知症地域支援推進員を2名専属で配置し、認知症の本人・家族等からの相談を受け、必要なサービスや医療につなげています。	①順調に進行	③・認知症施策推進員が本人及び家族等からの相談をしっかりと受け必要なサービスや医療につなげることができました。また、認知症カフェを開催することができました。	
			④高齢者の生きがいや社会参加、自立した生活を支援していくため、高齢者サロン等の居場所づくりや老人クラブなど高齢者団体の支援等を行います。また、これらの居場所交流の場に行くことができない(交通手段がない)高齢者への外出支援サービスも併せて行います。							④・町老人クラブ連合会及び単位老人クラブへ活動補助金を交付し、令和4年度は16団体、令和5年度は15団体へ支援を行いました。	①順調に進行	④・高齢者が生きがいを持ち、いつまでも社会参加が図られるよう、老人クラブ連合会及び単位老人クラブへ助成を行ないました。	
		(1)農業基盤の強化	⑤高齢者が介護を必要な状態にならないため「介護予防・日常生活支援総合事業」(ミニデイ、チャームんじゅう教室等)の充実を図ります。							⑤・各地域でのミニデイ及び運動教室、自宅参加型チャームんじゅう元氣プロジェクトを開催しました。	①順調に進行	⑤・運動教室ではプールの中のウォーキングやストレッチ、筋力トレーニングなど幅広い運動教室を行いました。ミニデイも町社会福祉協議会に委託し行っています。	⑤・ミニデイは各地区公民館を利用して行っていますが、地域によっては開催場所までの距離やボランティアスタッフの協力体制などの影響で、受け入れが難しいこともあります。ボランティアスタッフの育成等をする事で改善できるよう努めていきます。
			①優良農地を確保し安定した生産環境の整備を図るため、かんがい施設や生産施設等の農業基盤の強化を図ります。	産業振興課	遊休農地又は耕作放棄地の面積	9.4ha	9.9ha	7.7ha	77.8%	①・遊休農地解消及び農地深耕奨励補助金や畑地かんがいのための井戸設置事業補助金の交付を行いました。	①順調に進行	①・遊休地解消事業について令和5年度 658 千円実施しました。	
			②農地を有効活用し生産力の向上を図るため、農地の保全・強化や土壌改良をはじめ、人・農地プランの実質化による遊休農地や耕作放棄地の解消等、農地流動化・利用集積を図ります。							②・農地流動化・利用集積対策事業、認定農業者育成支援事業を実施しました。	①順調に進行	②・農地流動化事業について令和5年度は申請がありませんでした。また、認定農業者育成支援については認定更新に向けて取り組みました。	
		(2)農業経営の強化	③AIやドローンの導入等、新しい技術を活用したスマート農業の推進を図ります。	教育総務課・産業振興課	-	-	-	-	-	③・国や県の事業を活用しながらスマート農業支援事業のPRを行いました。希望者がいませんでした。	③未実施(検討中、業務無し等)	③・南風原町は中小規模農家が多く、スマート農業を導入する規模の農家が少ない状況となっており、また初期投資がかかることから、希望者がいない要因と考えられます。	③・中小規模農家が多く、初期投資のかかるスマート農業を導入するハードルが高いことが課題となっているため、先進地事例の学習会などを行い、支援事業の内容や活用方法について周知を図ります。
			①農業経営基盤の強化を図るため、意欲の高い就農者の経営規模の拡大や新たに農業に従事する方への農地提供を行うため、農地等の利用の最適化を図ります。また、企業等の農業経営への参入を促進します。							①・農地の利用状況を把握し、遊休地化している土地所有者へ耕耘の促しを行いました。また、貸借の要望等があれば新規就農者及び新規参入者への農地斡旋を図りました。	①順調に進行	①・農地の遊休地増加を抑制し、新規就農者が就農しやすい環境を作ることができました。	
			②関係機関と連携し、安定した出荷・供給体制の充実や地産地消の推進を図るとともに、県内外・海外への販路拡大に向けて、市場調査やPR活動などの取組を支援します。							②・産地協議会を通して課題抽出を行い、流通面や市場価格面での課題解決に向けて取り組みました。	①順調に進行	②・産地協議会を活用した活動を行うことで地産地消を推進することができました。	
			③学校給食における南風原産品の利用を推進するとともに、町民が手軽に入手しやすい環境整備に努めます。							③・南風原町産を多く取り扱っているくがに市場から野菜を仕入れています。学校給食への地域農産物の提供数は年々減少しています。 ・学校給食における地域農産物の提供日数は減少していますが、今まで提供できていなかった新たな食材を使った給食を提供できました。 ・JAをととして学校給食での南風原産品の提供を促します。また農産加工品のファーマーズマーケットでの販売を推進します。	①順調に進行	③・学校給食への地場野菜の供給体制構築が確立できていない状況となっていますが、今まで提供できていなかった新たな食材を給食に提供することができました。 ・関係機関との協力により、南風原町の農産加工品を入手しやすい環境づくりを行っています。	
			④南風原産品のブランド力の強化及びブランド力に向けて農業団体や関係機関等と連携し、安定した生産体制の構築や品質管理をはじめ、PR活動などの取組を推進します。							④・南風原産品の魅力について販売促進事業等でPRを行うことで、地産地消の推進にも寄与しています。旬の時期に販売促進事業を導入することで認知度を高める取り組みを行っています。	①順調に進行	④・販売促進事業を行うことで、南風原産品の認知度向上に寄与しています。	
			⑤安全・安心・健康などの消費者ニ							⑤・エコファーマーや特別栽培制度を農家に活用してもら	①順調に進行	⑤・ファーマーズマーケットを活用し、	⑤・エコファーマーマークや特別栽培制度

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			ズに対応した付加価値の高い農畜産物の生産に向けて、農業団体や関係機関等と連携を図り、優良品種等の導入や調査研究等に取り組みます。							い、安心・安全の食材販売ができる環境づくりに取り組みました。		消費者向けの特別栽培制度シールを貼り付ける事で販売促進を促してまいり安全のマークの紹介・PRを行う。優良品種を消費者へPRを行います。	
		(3)担い手の育成	①担い手農家を確保するため、認定農業者制度の活用や、関係機関や農業団体と連携して相談活動をはじめ、農業研修、各種事業の情報提供など、育成・支援に努めます。 ②生産技術に関する情報共有や農家同志の交流機会、優良農家へのインターン制度(技術移転)の導入、農畜産物のPR活動など多様な役割を担っている農業団体の活動を支援します。 ③無料職業紹介所の活用を推進し、農家と働きたい方のマッチングを図ります。 ④遊休農地や耕作放棄地の地域町民農園としての活用をするなど、興味を持ってもらえることで、担い手の確保を図ります。 ⑤障がい者等が農業分野で活躍する「農福連携」を支援し担い手の確保を図ります。	産業振興課	認定農業者数	22人	20人	30人	66.7%	①・認定農業者制度について周知を図り、更新漏れがないよう案内を行いました。 ②・普及事業連絡協議会活動の支援を行いました。 ③・無料職業紹介所をスムーズに活用できる体制づくりに取り組んでいます。 ④・農業に興味を持ってもらうため、JA所有の市民農園の周知を行っています。また担い手確保に向け遊休地の土地所有者へ解消を促し、就農相談を随時行っています。 ⑤・福祉サービスで農作業を行う事業者を把握し、希望があれば案内しています。	②一部進行 ①順調に進行 ②一部進行	①・認定農業者の更新漏れにより担い手が減少しないよう配慮しています。 ②・普及事業連絡協議会の支援や農業団体へ情報提供等行い支援につなげています。 ③・随時求職求人の募集を受け付けていますが、求職と求人のマッチングのタイミングがうまくいかないことがあります。 ④・既存の市民農園の活用のみで、遊休農地の市民農園への活用化は希望者がいないため行えていません。 ⑤・福祉サービス事業者が独立運営しており、要望等はありませんでした。	①・認定農業者制度のメリットや制度の利用促進などのPR、申請希望者の支援などをおこないます。 ②・更なる活動支援と農業団体同士の交流機会を促進します。 ③・求人求職の件数増加を狙ったPRをおこないます。 ④・遊休農地の市民農園に向けた組織へ支援を行います。 ⑤・関係課との情報交換等を行い農福連携を支援します。
		(4)他産業との連携による6次産業化の推進	①生産者、製造業、飲食店、町民など多様な主体と連携し、農畜産物等を活かした特産品開発を推進し、本町の特性や独自性を活かした6次産業化に向けた取組を支援します。 ②農業・農地が持つ潤いのある景観の創出や自然環境の保全、教育・体験学習(食農教育)、学校給食への活用、観光・レクリエーション、農作物を通じた交流や健康増進などの機能を活かした取組を推進します。	教育総務課・産業振興課	地域農産物を含んだ学校給食の実施日数	41日/200日	12日/200日	75日/200日	16%	①・町内のB～C級のスターフルーツをOEMでフレーバーティに加工し、町内事業者で取り扱っています。 ②・JAより南風原町産かぼちゃを提供してもらい学校給食に提供しました。 ・学校給食に安全安心な地元産の食材を活用し、給食時間の校内放送や給食だよりで使用食材の紹介及び産地の表示を行いました。 ・年に4回、町内保育所または小中学校の菜園にて、地域の農家を招聘して児童生徒に、農業体験学習を行っています。また、町産野菜を年に数回、学校給食の献立に取り入れています。	②一部進行 ①順調に進行	①・これまで作成された町産農産加工品をイベント毎にPR販売をおこないました。また、町産スターフルーツのフレーバーティの商品化に成功しました。 ②・学校給食に地域農産物の食材を取り入れることで食育につながっています。今後も安定的に地場野菜等を提供できる取り組みを推進します。 ・農業体験学習の授業を通して、農家と学生との交流を行っています。学校給食への定期的な地場野菜の供給ができていません。	①・町独自の6次化産業を推進する支援事業がなく、相談があっても県の支援事業しか案内できないことが課題となっています。 ②・学校給食における地域農産物の提供日数が減少していることが課題となっています。今後も安定的に地場野菜等を提供できる取り組みを推進します。 ・令和元年度にこれまで学校給食に提供していた企業が廃業し、地場野菜の提供数が増えています。献立は、早い段階で作成するため、計画時点で安定して供給できる体制の構築が課題となっています。給食センター、JA、くがに市場と連携し、供給日数の増加に努めます。
	2節 賑わい・就労を創る商業、製造業、新規産業の振興	(1)商業、製造業等の既存産業の振興	①本町における産業の現状や事業所の支援ニーズについて把握し、実情に即した効果的な産業振興を図ります。 ②製造業等の技術力向上を図るため、ITの活用、得意分野の連携による新たな商品の開発、産官学金等が協力した高度化技術の導入・開発等への支援に努めます。 ③町内に立地している事業所等の業務拡大に伴う移転については、町内での移転立地に向けた支援に努めます。	産業振興課・まちづくり振興課	事業所数(経済センサス基礎調査)	1,441事業所(H28年)	-	1,759事業所	-	①・令和4年度は中小企業・小規模企業振興推進協議会を開催し、町内事業者の状況やニーズ等の意見を聴取することで、今後の支援施策について検討を行いました。令和5年度は開催することができませんでした。また、令和4年度、令和5年度において、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響を受ける事業者に対して支援金を給付するなど、事業者の実情に合わせた施策を実施しました。 ②・町内事業者が地域資源を活用して製造及び販売する商品を、消費者ニーズにあった魅力ある商品にブラッシュアップするための支援を行いました。また、商品の製造や販売方法の課題を解決するために専門家を招聘するなど、町内事業者の技術力向上のための支援を行いました。 ③・町内事業者等の町内移転の相談等はありませんでしたが、土地利用推進班を新設し、相談体制の強化を図りました。	②一部進行 ①順調に進行	①・令和5年度は、中小企業・小規模企業振興推進協議会が未開催だったものの、令和4年度に再発足しましたが、施策への町商工会と連携し、町内事業者に必要な支援を実施するなど、その他の事業については、順調に進んでいます。 ②令和4年度に商品改良の支援を実施した商品は、販売向上率が前年度と比べて40%以上増加し、目標を達成する事ができました。 ③・町内事業者等の町内移転の相談等はありませんでした。 ・町内の企業から、移転・立地相談があり、その都度用途地域等の情報提供を行なう支援を行ないました。	①・事業者の意見聴取の場である協議会を令和4年度に再発足しましたが、施策への反映に至っていないため、中小企業・小規模企業振興協議会にて意見聴取及びその取りまとめを行います。協議会から提案のあった中小企業・小規模企業の振興施策については、中小企業・小規模企業振興審議会にて審議していただき、その結果を今後の中小企業・小規模企業の振興施策へ反映させていただきます。 ②・引き続き、町内の地域資源を活用した商品の開発、ブラッシュアップの支援を行います。 ・県内外でのテスト販売会等を通して最新トレンドや市場動向を把握し、消費者ニーズに対応した商品開発に取り組みます。また、はえばる良品のブランド認証やプロモーション、県内外での商談を実施し、販路開拓にも取り組んでいきます。 ③・事業者からの相談内容に応じて、関係課と連携し対応します。 ・引き続き用途地域等の情報提供を行ない、町内での移転立地や町外からの企業誘致に向けて取り組んでいきます。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			④工事の発注、物品及び役務の調達等にあたっては、町内事業所への受注機会の増大を図ります。							④・地元産品の優先使用については、例年7月に県産品優先使用奨励月間として、庁舎に懸垂幕やのぼり旗を設置したり、町ホームページで広報するなどの取り組みを実施しています。	①順調に進行	④・町内外への地元産品の優先使用についてPRを実施しました。	④引き続き、町内外へ地元産品の優先使用についてPRを実施していきます。
		(2)集積している産業を活かした新たな展開	①医療・健康関連産業の連携やスポーツコンベンション等による新たなビジネス化の支援に努めます。	産業振興課	-	-	-	-	-	①・令和5年度に名古屋グランパスのキャンプ実施10周年を記念して、開幕戦(トヨタスタジアム)で、南風原町PRブースを設置し、本町の特産品の販売を行いました。	①順調に進行	①・南風原町PRブースにおいて、町の特産品の販売を行い、ブースを訪れたグランパスサポーターからは、特産品とグランパスのコラボ商品の要望が多くありました。	①・今後は、町特産品とグランパスとのコラボ商品など、消費者のニーズに合わせた商品開発に取り組んでいきます。
			②印刷関連産業や情報関連産業の技術を活かした新たな展開の支援に努めます。							②・令和5年度に那覇市久茂地のUFURUFU(ウフルーフ)において、沖縄印刷団地協同組合(以下「組合」という。)と共催で「紙と織布のマルシェ」を開催し、紙の端材や「琉球かすり」などの織布のハギレを活用した商品販売しました。また、廃棄予定のダンボールを活用したダンボール迷路を設置するなど、子ども楽しめるイベントになるよう関係事業者と協力して実施しました。	①順調に進行	②・「紙と織布のマルシェ」を組合と共催で行い、組合からは、「廃棄予定のダンボール等が有効活用されて良かった」との声がありましたが、組合や構成企業の商品の販売は行っておらず、直接的な売上につなげることができませんでした。	②・今後も継続してイベントが開催できるよう、組合の売上につながるような取り組みも検討します。
		(3)企業の相談・支援、雇用促進	①町商工会と連携した企業の経営改善に向けた相談及び指導、各種制度資金の活用など企業経営の安定化に向けた支援に努めます。	産業振興課・まちづくり振興課	創業相談等	12件	14件	20件	70%	①・町商工会では、各種補助金制度やインボイス制度等に関する相談窓口を設置するなど事業者のニーズに合わせた支援を実施しています。町では、町内企業の経営改善に向けた相談及び指導や各種支援制度の活用を支援するため、町商工会に対して、商工業振興補助金の交付と運営資金の貸付けによる支援を実施しました。なお、町商工会の会員数は、令和3年度863会員、令和4年度末941会員、令和5年度末958会員と増加傾向にあります。	①順調に進行	①・町商工会と連携し、各種支援制度等に関する相談窓口を設置するなど適切な支援を実施することができました。	①・今後も町商工会と連携し、事業者の支援を実施します。また、国や県の支援制度など最新の情報収集に努めます。
			②無料職業紹介所については、町内企業及び町民等への周知を図り、雇用機会の提供及び企業支援に努めます。		求職者への相談・紹介数	5回	6回	24回	25%	②・求職者への相談・紹介数:令和4年度7回、令和5年度6回 また、町ホームページに雇用サポートセンターの記事を掲載しました。	②一部進行	②・一定数の相談はあるが、実際の就労につなげることができていません。	②・求職者と求人者のマッチングを行い、実際に就業につなげるよう、雇用サポートセンターの周知を図ります。
			③企業希望者については、町商工会と連携して相談・制度活用に関する情報提供を推進するなど、企業支援に努めます。							③・令和4年度は22件、令和5年度は14件、創業予定者等から相談があり、町商工会で創業相談、事業計画作成支援を実施するなど、創業支援等事業計画に基づく支援を実施しました。 ・土地利用推進班を新設し、起業希望者の相談や制度活用に関する情報提供を行ないました。	①順調に進行	③・町商工会と連携し、創業予定者等に対して創業に向けた支援を実施することができました。 ・起業希望者から、立地相談があり、それ以外にも創業セミナーなどの特定創業支援事業を実施する法人等がいることから、創業者等のニーズに合わせて斡旋できるように日頃から連携を図っていきます。 ・引き続き用途地域等の情報提供を行ない、町内での起業を希望している方への支援に取り組んでいきます。	③・今後も町商工会と連携し、創業予定者等の相談対応等、創業支援等事業計画に基づいた支援を行います。また、町商工会・起業希望者から、立地相談があり、それ以外にも創業セミナーなどの特定創業支援事業を実施する法人等がいることから、創業者等のニーズに合わせて斡旋できるように日頃から連携を図っていきます。 ・引き続き用途地域等の情報提供を行ない、町内での起業を希望している方への支援に取り組んでいきます。
		(4)企業進出の環境整備	①本町の産業構造等の特徴を踏まえて、戦略的に誘致すべき企業のあり方や進出希望企業に対する産業用地の確保(土地利用の見直し)など環境整備の方策を検討します。	まちづくり振興課	-	-	-	-	-	①・土地利用推進班を新設し、企業からの移転・立地相談に関して用途地域等の情報提供等の支援を行ないました。また、企業誘致を図るため、南風原南インターチェンジ周辺の照屋地区の土地利用の見直しに取り組みました。	①順調に進行	①・企業からの移転・立地相談等に対し支援を行ないました。また、照屋地区の組合施行の区画整理事業に向けて推進することができました。	①・引き続き用途地域等の情報提供を行ない、町内での移転立地や町外からの企業誘致に向けて取り組んでいきます。また、照屋地区の組合施行の区画整理事業を推進し、その他の地区においても土地利用の見直しを検討します。
	3節 地域の連携で創る観光の振興	(1)観光振興計画の着実な推進と体制の強化	①観光振興に係る推進体制の強化をはじめ、新たな魅力づくり、滞在型観光をめざした環境整備などの施策を計画的に実施します。	産業振興課	民泊登録数	14家庭	5家庭	15家庭	33.3%	①・民泊については、民泊新法により届出申請が必要となったことや、経営者の高齢化等による廃業が重なり大幅に減少する結果となっています。	③未実施(検討中、業務無し等)	①・関連事業がなく、具体的な対応ができていません。	①・観光協会や関連団体と連携し、民泊事業者を増やすよう努めていきます。
			②地域と連携して、観光に携わる人材の育成に取り組めます。		観光ガイド人数 (内コーディネーターガイド)	28人 (16人)	39人 (14人)	40人 (20人)	97.5% (70%)	②・シマじまガイド事業(ガイド育成事業)において、ガイド育成に取り組みましたが、高齢化や育児等の理由によりガイドを辞める方もいるため、その人数は微増となっています。	②一部進行	②・シマじまガイド事業において、ガイド育成を行っており、徐々にではありますがガイド数を増やしています。	②・今後も観光ガイド数を増やし、県外へのPR活動を強化することで、観光客の増加に取り組めます。
			③町民に対して、観光資源の情報提供をはじめ、まち歩きイベント開催など本町の観光資源について知って・体験できる機会を創出するとともに、町民も一体になった観光振興に向けたおもてなし意識の醸成を図ります。							③・シマじまガイド事業(ガイド事業)において、令和4年度は事業担当職を採用することができずガイド事業が減少しました(7回)が、令和5年度は計画的にガイドを実施しました。(11回)	①順調に進行	③・観光協会の人員不足の影響により、事業実施に苦慮しています。	③・町内だけでなく、町外からの参加者が増加するよう取り組みます。
			④沖縄観光コンベンションビューローをはじめ、各種観光関連団体や関連企業等を連携し、観光プログラムの設定など広域的な施策の展開を図ります。							④・町観光協会と連携し観光事業に取り組んでいますが、広域的な施策の展開には至っていません。	③未実施(検討中、業務無し等)	④・広域的な施策の展開には至っていません。	④・他市町村の観光協会と本町観光協会の連携に努めます。
			⑤観光拠点における公衆Wi-Fiの通信環境の向上を進め、観光客の利便							⑤・公衆Wi-Fiについては、利用状況や費用対効果を総合的に判断した結果、令和4年度をもって事業を終了しました。	③未実施(検討中、業務無し)	⑤・公衆Wi-Fiのあり方について検討します。	⑤・公衆Wi-Fiのあり方について検討する必要があります。

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
		(2)新たな観光資源の整備・活用	性向上を図ります。	産業振興課	-	-	-	-	-	た。	等)		
			①風景、モノ、人集落景観など観光資源カルテを作成し、新たな観光資源の発掘・整備・活用への取組を推進します。							①・観光資源カルテは作成できていませんが、シマじまガイド事業等において各字の観光資源発掘に努めています。	②一部進行	①・観光協会実施のシマじまガイド事業等において史跡等についてのガイド事業を行っています。風景や集落景観については十分にスポットをあてできていません。	①・風景や集落景観に重点をおいた観光資源の発掘に取り組みます。
			②町内のスポーツ施設をはじめ、医療機関など集積している産業や農産物を活かした「食」など、本町の特徴ある資源の観光への活用を推進します。							②・観光PR事業において、SNSで町内の飲食店情報の掲載・PRを実施しています。また、町特産物のへちまやかぼちゃのPRも行っています。	②一部進行	②・SNSを利用しPRを行っています。また、PR方法も含め検討を行っていく必要があります。	②・県外へも情報発信を行えるよう観光協会とPR方法について検討していきます。
		(3)既存資源の活用・魅力向上の推進	③町の魅力ある資源について町民をはじめとして広く意見を募るなど、新たな観光資源の発掘に取り組みます。	産業振興課	観光ツアー数	476人/8回	189人/18回	500人/12回	37.8%/150%	③・町民向け観光アンケート等については実施できていませんが、随時町の魅力ある資源について調査をしています。	③未実施(検討中、業務無し等)	③・どのような手法で意見を募るか検討する必要があります。	③・観光協会と連携し、町観光資源の発掘について調査を行っていきます。
			①町内の史跡等や優れた景勝地等の活用を図ります。							①・シマじまガイド事業において、各字の史跡めぐり等を行っています。	②一部進行	①・シマじまガイド事業で町内史跡を回ること、活用を図ることができました。	①・シマじまガイド事業において史跡等の更なる活用を図ります。
			②平和学習をはじめ、かすりの里、綱曳き等の地域の歴史・文化・芸能などの観光資源の活用を促進するとともに、着地型観光プログラムの開発など、観光プログラムの内容の充実化を図ります。							②・町観光協会によるかすりの道ツアーやシマじまガイド事業において、同じ字でも毎回内容の異なるガイド事業を行っています。しかし、令和4年度、令和5年度においては人手不足のため、大人数参加の観光ツアーを実施することができず、目標を大きく下回る結果となりました。	②一部進行	②・町外、県外での認知度が低い、PR方法について検証が必要です。	②・着地型観光には至っていないため、更なる観光プログラムの充実や効果的なPRを図る必要があります。
		(4)観光情報発信の充実	③本町の名所・史跡など個々の観光資源をネットワークし、点から面への観光プログラムを設定するとともに、緑化や集落景観の形成などのまちづくり活動を通して、町全体の魅力向上を図ります。	産業振興課	-	-	-	-	-	③・シマじまガイド事業において、各字のガイド事業などを行っています。	②一部進行	③・これまでの事業実績について取りまとめができていないため、取りまとめる必要があります。	③・これまでの実績を活用し、観光協会のホームページなどで公開することでPRを行い町の魅力向上を図ります。
			④脚本家の金城哲夫、飛び安里などの所縁のある偉人を活かしたイベントや観光施策を推進します。							④・ヒーローのまちづくり事業において、金城哲夫氏や偉人を活かしたイベントを実施しています。(ウルトラマンショー、新春風上げ大会、劇団海における偉人をテーマにした劇の実施)	②一部進行	④・県外来場客が少ないため、県外へのPR強化をする必要があります。	④・ヒーローのまちづくり事業についての認知度を向上させるため、町内だけでなく、町外及び県外でも事業を実施できるよう取り組んでいきます。
			①町観光協会をはじめ、町のホームページ、アプリなどで提供している観光に関する情報の充実化、動画配信サービス(YouTube)など多様な媒体での広報に努めます。							①・観光協会におけるYouTube(兼城十字路ch)や、町や観光協会のホームページ及び各SNSで広報を行っています。	①順調に進行	①・観光協会SNSでは順調に配信数を増やしており、町SNSもフォロワー数を順調に伸ばしている等、順調に推移しています。	①・観光協会及び町ホームページで情報発信を行っています。県外での認知度が低い、SNSを中心に更なるPRを行っていきます。
4節 歴史と伝統を誇る工芸産業の振興		(1)経営環境の改善への支援	②各種イベントの開催、本町のイメージキャラクターと伝統工芸の琉球絣・南風原花織を観光PRツールとして有効活用するなど、町内外におけるPR活動を推進します。	産業振興課	琉球絣等従事者数	166人	161人	170人	94.7%	②・琉球絣の女王やはえるんの各々のSNSにおいて町及び町観光についてPRを行っており、どちらも順調にフォロワー数を伸ばしています。令和5年度にはグランパス関連イベントとして愛知県豊田市在豊田スタジアムにおける名古屋グランパス開幕戦において、はえるんや琉球絣の女王がイベント等に参加し、本町及び町観光についてPRすることができました。	①順調に進行	②・ここ数年県外でのPR活動を行っていませんでしたが、令和5年度にグランパス関連イベントを行うことができました。	②・県外でのイベントに積極的に参加することで、本町や本町の観光、イメージキャラクター等の認知度を向上させます。
			①伝統工芸産業の自立に向けた総合的な支援に努めます。							①・琉球絣事業協同組合が作成している振興計画に基づき、後継者育成事業や需要の開拓の支援を行いました。	①順調に進行	①・令和3年度に認定された各振興計画(琉球絣：第8次、南風原花織：第2次)に基づいた事業を実施することができました。	①・引き続き、琉球絣事業協同組合と連携して、総合的な支援を行っていきます。
			②伝統的な織物としての技術を継承し、ブランドを維持するとともに、消費者のニーズに対応した需要の高い商品開発及び販路開拓に向けた取組を支援します。							②・琉球絣事業協同組合に対して、琉球絣・南風原花織振興事業費補助金の交付や運営資金の貸付による支援を行いました。 【琉球絣事業協同組合での販路開拓(県内外展示会、展示即売会回数)】 令和4年度：12回 令和5年度：10回	①順調に進行	②・補助金と貸付金による支援を行い、琉球絣事業協同組合での商品開発及び販路開拓等の取組を支援することができました。	②・引き続き、琉球絣事業協同組合が実施する商品開発及び、販路開拓の取組へ支援を行います。
		(2)新たな観光資源の整備・活用	③町民向けのイベント開催や体験学習など、町民が伝統芸能に親しむことができる環境づくりに取り組みます。	産業振興課	琉球絣等生産額	144,667千円	163,194千円	204,667千円	79.7%	③・庁舎1階町民ホールで展示販売会を実施しました。また、琉球絣事業協同組合では、通年で、コースター織りの体験学習を実施しています。	①順調に進行	③・役場庁舎での展示販売会や織り体験を実施することで、町民が伝統工芸に親しむことができる環境づくりに取り組むことができました。	③・引き続き、町民が伝統工芸に親しむことができる環境づくりに努めます。
			④琉球絣事業協同組合及び町観光協会、役場等のホームページやその他媒体を活用して掲載情報の充実化を図り、町民、県内外・海外への情報発信に取り組みます。							④・町及び琉球絣事業協同組合、町観光協会のホームページ、SNS等を活用し、様々な情報発信に取り組みました。	①順調に進行	④・ホームページ、SNS等を活用し、様々な情報発信に取り組みました。	④・周知・宣伝についてまだまだ不足していることから、引き続き町民をはじめ、県内外に対して、情報発信に努めます。
		(3)既存資源の活用・魅力向上の推進		産業振興課	観光ツアー数	476人/8回	189人/18回	500人/12回	37.8%/150%				
		(4)観光情報発信の充実		産業振興課	-	-	-	-	-				

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
		(2)後継者育成支援	①「デザイン・くくり」「染色」「製織」などの各工程における後継者の育成をはじめ、すべての工程に精通したコーディネーターの育成など、伝統工芸産業の将来を見据えた長期的な視点での後継者育成を支援します。	産業振興課・学校教育課	新規担い手者数	延べ 60 人 (年 8 人)	延べ 90 人 (年 8 人)	延べ 100 人 (年 8 人)	90%	①・琉球絣事業協同組合にて、総合的知識から技術・技法の習得を目的とした、後継者育成事業を実施しました。 【琉球絣事業協同組合での後継者育成人数】 令和4年度：琉球絣6人、南風原花織5人 令和5年度：琉球絣4人、南風原花織4人	①順調に進行	①・琉球絣事業協同組合にて、後継者育成事業を実施することができました。	①・高齢化による従事者数の減少、後継者不足により分業体制の維持が厳しい状況にあることから、引き続き担い手の育成が必要となっています。今後は状況にあわせて、後継者育成事業に取り組んでいきます。
			②町内の児童・生徒をはじめ、伝統工芸産業に興味のある方に対する体験・学習機会の提供やインターン制度の実施、研修費用の支援など、多様な人材育成及び確保を図ります。							②・町内小中学校の総合学習による体験学習を行いました。 令和4年度：3回 令和5年度：2回 ・講師を招聘して、町内の特産物や琉球絣等の伝統文化を伝える授業を行いました。	①順調に進行	②・琉球絣事業協同組合にて、町内の小中学校の総合学習の授業で体験学習をすることができました。 ・児童生徒へ町内の伝統文化について継続して児童生徒へ学習の機会をもうけることができました。	②・町内小中学校の総合学習での利用が減少傾向にありますが、受け入れを継続できるよう様々な支援を行います。 ・継続して児童生徒へ学習の機会をもうけ、人材育成に取り組んでいきます。
		(3)観光関連産業等との連携による展開	①琉球絣や南風原花織と他産業との連携による各工芸相互の体験の場などのプログラムづくりに取り組みます。	産業振興課	-	-	-	-	-	①・町観光協会実施の、かすりの道ツアーでの織り体験を実施しました。 令和4年度1回、令和5年度3回	①順調に進行	①・琉球絣事業協同組合と町観光協会が連携し、順調に実施することができました。	①・国内の方、海外の方両方を対象に、かすりの道ツアーを実施します。
			②独自のイベント開催や観光関連イベントと連携した取組など、多様なPR活動を推進します。							②・独自イベント、観光関連イベントと連携した取組等実施しました。 【独自イベント】 令和4年度:びんがた組合との合同販売会 令和5年度:かすりの里まつり 【観光関連との連携イベント】 かすりの道ツアー(織り体験):令和4年度1回、令和5年度3回 美ら島おきなわ文化祭-お茶会(令和4年度)2日間開催 (ヒーローのまちづくり事業)かすり会館でのセブンかすりの展示(令和5年度)	①順調に進行	②・独自イベント、観光関連イベントと連携したイベントともに、順調に実施することができました。	②・引き続き、独自イベント、観光関連イベントと連携した取組を実施し、多様なPR活動に努めます。
			③観光関連産業をはじめ、異業種、他産地との多様な連携を図り、観光プログラムの開発や商品開発等によって伝統芸能産業の活性化に取り組みます。							③・琉球絣事業協同組合と町観光協会、町商工会の連携による、商品開発に取り組みました。 町観光協会:ヒーローのまちづくり事業でのセブンかすり 町商工会:はえばる良品での Go-Maai 商品	①順調に進行	③・町観光協会、町商工会と協力し、順調に実施することができました。	③・引き続き、町観光協会や町商工会等と連携と図り、伝統工芸産業の活性化に取り組めます。
5 みどりともちが調和した安全・安心のまち(都市基盤・安全・安心)	1 節 安全・安心に暮らせるまちづくり	(1)防災体制の強化と推進	①「南風原町地域防災計画」に基づく総合的・体系的な防災施策を推進し、適時、社会状況を踏まえた見直しを行います。また、大規模災害等においても必要な行政機能を維持・継続するための業務継続計画(BCP)を策定し、全庁的な取組を推進します。	総務課・保健福祉課	自主防災・防犯組織数	4 団体	6 団体	9 団体	66.7%	①・社会状況を踏まえ地域防災計画の見直しを行いました。	①順調に進行	①・関係機関と協力して防災計画の見直しを図ることができました。	①・地域防災計画をもとに、様々なマニュアル作成に取り組んでいきます。
			②地域(各字・自治会)、学校等における避難訓練等を通し、防災意識の向上を継続的・実践的に推進するため、自主防災組織の設立及び訓練等を支援します。							②・令和5年度に自主防災組織補助金交付要綱を策定し、組織結成および活動促進に対する支援を行いました。また区長会等を通じて組織が実施する防災訓練への助言等を行いました。	①順調に進行	②・補助金交付要綱策定により、活動への支援が充実しました。	②・防災訓練の実施や自主防災組織活動への助言等支援に取り組んでいきます。
			③災害時における避難誘導をはじめ、避難所での高齢者や有病者、子どもへの対応など、平時より点検・調査研究を進め、行政と町民の役割分担や支援する側の潜在的な人的資源の活用など、災害時に速やかに対応できる環境づくりに取り組みます。							③・令和5年度の防災訓練において、参加した町民自ら避難所の間仕切り設置等を体験してもらうなど、内容を工夫して実施しました。 ・令和4年度:災害時要支援者名簿更新、台風時の医療的ケア児避難に向けた協議等を実施しました。 令和5年度:避難行動要支援者名簿に関する条例制定(個人情報保護法改正に伴う)、同条例施行規則制定、及び災害時要支援者名簿取扱要綱を避難行動要支援者名簿取扱要綱へ全て改正、医療的ケア児支援検討会などを実施しました。	①順調に進行	③・防災訓練や出前講座等を通じて直接町民の防災知識の向上に寄与することができました。 ・令和4年度:災害時要支援者名簿取扱要綱の規定どおり名簿の更新を行いました。保護広域連合や他部門の情報を抽出し統合した。台風時に医療的ケア児が避難所するなど作成に時間を要していることや、へ避難する際の課題等検討やシミュレーションを保護者や支援者を行うこと保や市町村医療的ケア児コーディネーターの育成など課題が多い状況です。 令和5年度:避難行動要支援者名簿に今後の取り組みとして避難行動要支援者関する条例及び関係例規の整備に時間名簿の作成については、短期間で定期的に更新できるよう調査・研究を行います。被災。医療的ケア児支援検討会を医療関係者に医療的ケア児及びその保護者が関係者、福祉事業所関係者、行政等関係者ないよう、連携を密にし個別対応を行う機関が集まって実施することができま中で、町として支援の方向性を整理しています。医療的ケア児の保護者へ「蓄電池の充電お願いカード」を配布し、緊急時に役場等でカードを提示するだけで蓄電池等への充電ができるよう体制を整えました。	③・要配慮者への対応等を関係部署と連携し、災害に対応できる環境づくりに取り組んでいきます。 ・避難行動要支援者名簿の更新について介要綱の更新ができないでし更新できるよう調査・研究を行います。被災。医療的ケア児支援検討会を医療関係者に医療的ケア児及びその保護者が関係者、福祉事業所関係者、行政等関係者ないよう、連携を密にし個別対応を行う機関が集まって実施することができま中で、町として支援の方向性を整理しています。医療的ケア児の保護者へ「蓄電池の充電お願いカード」を配布し、緊急時に役場等でカードを提示するだけで蓄電池等への充電ができるよう体制を整えました。
		(2)地域と協働した防犯・安全体制の確	①防犯灯や交通安全施設の設置など、地域における安全・安心な環境基	総務課・都市整備課		16 回	17 回	16 回	106.3%	①・地域から要望のある危険箇所へ「交通安全表示(電柱幕等)」の設置や各自治会からの要望をヒアリングし、「交	②一部進行	①・地域の要望をヒアリングしながら交通安全意識向上に寄与しました。	①・地域の要望をヒアリングしながら安全・安心な環境基盤づくりに向け今後も取り組

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
2 節 快適で文化的に暮らせるまちづくり		立と推進	盤づくりを地域と協働し取り組みます。	総務課・まちづくり振興課	数					通安全表示」の配布を行いました。 ・各字・自治会に防犯灯設置及び修繕費用に対し補助金を交付しました。また、道路の区画線やグリーンベルトの整備を行いました。		・防犯灯の補助金を交付することや、道路の区画線等を整備することで安全・安心な環境基盤づくりを行うことができました。	・今後も防犯灯の設置等に補助金を交付することや、南風原町総合交通戦略において示されている生活道路安全対策を推進します。
			②各字・自治会や各種団体との継続的な連携、「子ども 110 番の家」登録店舗の活用によるマンパワーの確保と育成を図ります。		災害に強いまちづくりに関する取り組みへの町民満足度	29%	-	55%	-	②・自治会や各種団体との継続的な連携により、不審な情報があった際はホームページや LINE 等で周知を行いました。	②一部進行	②・自治会や各種団体との継続的な連携を行っています。「子ども 110 番の家」登録店舗等の情報共有が不十分となっています。	②・最新の「子ども 110 番の家」登録店舗等を確認して、地域との情報共有に取り組んでいます。
		(3)減災のまちづくりへの取組	①防災・防犯への取組は、普段の地域活動の蓄積や経験が基本となることから、ハードとソフト両面からの視点によるまちづくりの調査・研究を進め、関連施策との連携を図ります。 ②日常的な公園利用や散策ルートなどが、災害時の避難場所や避難ルートになるような災害・非常時に有効に機能するまちづくりを図ります。		災害に強いまちづくりに関する取り組みへの町民満足度	29%	-	55%	-	①・地域の要望をヒアリングしながら、河川監視カメラの整備を関係課と連携して進めました。 ・令和3年度に策定した南風原町都市計画マスタープランに基づき、防災・減災の取り組みを進めており、災害に強いまちづくりに向けて事業を展開しています。 ②・児童館や自治会等と避難場所や避難ルートについて、講座や訓練を行いました。	②一部進行	①・防災・防犯の注意喚起が必要となっています。 ・南風原町都市計画マスタープランに基づき、土砂災害、治水、津波浸水、震災・火災の対策を行っています。	①・冠水の注意喚起等の看板設置やハザードマップの更新を行います。 ・引き続き、災害に強いまちづくりに取り組むため、南風原町都市計画マスタープランに基づき、各施策を実施していきます。
		(1)緑地の保全	①民有地の丘陵緑地については、都市的土地利用への転用が可能であり、災害・景観等の面から、今後も緑地保全対策のあり方を検討します。 ②荒地地及び丘陵地の緑化等による質の向上など、緑地の保全と整備(緑道整備等)に取り組みます。	まちづくり振興課	緑化に関する助成制度活用団体数	6 団体	-	10 団体	-	①・令和3年度に策定した南風原町都市計画マスタープランに基づき、防災・減災の取り組みを進めており、災害に強いまちづくりに向けて事業を展開しています。	①順調に進行	①・南風原町都市計画マスタープランに基づき、土砂災害、治水、津波浸水、震災・火災の対策をしています。	①・引き続き、災害に強いまちづくりに取り組むため、南風原町都市計画マスタープランに基づき、各施策を実施していきます。
		(2)公園・広場の整備	①公園整備については、人口増加に伴い子育て環境や身近な生活環境の面からも地区内の小規模公園・広場の整備を検討します。 ②新たな公園・広場の整備や維持管理にあたっては、町民との協働による取組を推進します。 ③公園に遊歩道を整備し、ウォーキング、散策、自然観察など楽しめる空間作りを推進します。	都市整備課・子ども課	公園や緑地の保全や充実に関する取組への満足度	45%	-	50%	-	①・津嘉山公園の多目的広場を整備し部分共用開始を行いました。 ・「遊び場及び遊具設置等補助金」を活用し、字に整備する補助を実施しました。 ②・津嘉山公園の植栽については地元住民と相談の上で決定し、また、3公園の維持管理については地元の区及び自治会が指定管理者として実施しています。 ③・津嘉山公園の一部の遊歩道を整備し供用開始を行いました。	②一部進行	①・良好な都市環境機能確保するため、さらなる整備が必要となっています。 ・申請する字に補助を実施していますが、年度により相談件数が増減するため、予算が不足する恐れがあります。	①・今後も計画的に事業を推進し、部分的な供用を開始するなど、事業の効果が早期に現れるよう努めます。 ・今後も相談件数による予算不足がないよう調整を行いながら、「遊び場及び遊具設置等補助金」を継続実施し、子どもたちを事故から守り、健全な育成を図っていきます。
		(3)水辺空間の保全・活用及び水と緑のネットワーク	①南風原ダム等のため池や河川等の水辺空間の保全・活用のあり方について、検討します。	住民環境課・まちづくり振興課・都市整備課	-	-	-	-	-	①・はえばるエコセンターの環境学習講座で国場川の水の観察会を実施しました。	①順調に進行	①・夏休み期間中に国場川の水の観察会を実施し、子ども達に水辺の環境学習につなげる取り組みを実施しました。	①・はえばるエコセンターの環境学習や各種一般講座の充実を図ります。 ・南風原ダム等のため池や河川等について、安全性の確保と親水性とのバランスが課題となっています。 ・生態系の保全や老朽化した施設の安全管理が課題となっています。
			②貴重な資源である河川環境改善のため、町民の意識高揚を図り、地域と連携した水辺をきれいにする会(仮称)の組織づくりと機運づくりを推進します。また、関係市町及び団体等と連携して水質浄化に取り組みます。							②・国場川の関係市町による「国場川水あしび」を開催し、水辺の環境保全の大切さの意識高揚を図りました。	①順調に進行	②・事業の実施により町民の河川環境改善に対する意識高揚に寄与できました。	②・町民との連携にむけた、関心を引き出す取組を検討します。
			③都市の中における貴重な資源である水辺空間は、周辺環境も含め自然観察・環境学習の場としての活用、蛸・とんぼ等の生物の多様性の保全・活用を図ります。							③・はえばるエコセンターの環境学習講座で様々な観察会を行い、水辺空間の観察などの活動を実施しました。	①順調に進行	③・昼や夜間の公園などで観察会を実施し、水辺にすむ生物などの環境学習種一般講座の充実を図り、参加者増に向けて町民ニーズの把握に努めています。	③・はえばるエコセンターの環境学習や各種一般講座の充実を図り、参加者増に向けて町民ニーズの把握に努めています。
			④広場や河川沿いの緑道の整備を図るとともに、街路樹が整備された幹線道路やかすりの道など、これまでのストックの利活用について評価・分析を行います。							④・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な景観や緑陰の確保に取り組んでいます。	②一部進行	④・良好な景観や緑陰の確保に取り組んでいますが、利活用について評価・分析まで実施できていない状況です。	④・今後は、既存の幹線道路やかすりの道等でのように利用が進められているのか評価・分析を行い、さらなる利活用に向けて検討を行います。 ・多様なニーズへの対応やデータ収集と評価、分析手法が課題となっています。
			⑤評価・分析を基に、点や線として整備されてきた基盤をネットワーク化							⑤・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な景観や緑陰の確保に取り組んでいます。	②一部進行	⑤・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な	⑤・引き続き、南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			し、景観づくりや健康づくりなど多様な波及効果のある施策づくりに努め、利活用に向けて町民との情報共有を図ります。									景観や緑陰の確保に取り組むことができました。	な景観や緑陰の確保に取り組んでいきます。
		(4)個性ある美しい住環境の保全・創出	①「南風原町景観計画」に基づき、良好な景観づくりへの誘導を図ります。	まちづくり振興課・区画下水道課	-	-	-	-	-	①・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な景観や緑陰の確保に取り組んでいます。	①順調に進行	①・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な景観や緑陰の確保することができました。	①・引き続き、南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な景観や緑陰の確保を推進していきます。
			②道路管理協定等による町民及び各種団体と行政との役割分担、支援のあり方など、協働によるまちづくりに向けた取組の充実・強化を図ります。							②・事業実績なし	③未実施(検討中、業務無し等)	②・事業実績なし	②・町民との連携にむけ、関心を引き出す具体的な取組や、役割分担、支援のあり方など、制度の構築が課題となっております。
			③緑化推進のための助成制度の発展的な利活用を図ります。							③・事業実績なし	③未実施(検討中、業務無し等)	③・事業実績なし	③・事業実績なし
			④生活に密接に関係する生活道路や沿道については、狭隘道路のアクセス性向上等のハード的に対応する面と、ブロック塀の生垣化などソフト面も含めたきめ細かい対応のあり方を検討します。							④・南風原町交通基本計画及び南風原町総合交通戦略を策定し、生活道路の安全性を向上させるための根拠づくりを行いました。また、生活道路安全対策協議会を立ち上げ、津嘉山小学校、北丘小学校地区の安全対策を検討しました。	①順調に進行	④・南風原町交通基本計画及び南風原町総合交通戦略を策定したことにより、今後の事業展開が行いやすくなりました。また、生活道路安全対策協議会を立ち上げ、津嘉山小学校、北丘小学校地区の安全対策を検討できました。	④・引き続き、生活道路の安全性を確保するために、様々な検討を行ない、事業化できるよう取り組んでいきます。
			⑤道路等の公共事業の導入に際しては、街路樹の植栽に努め、緑陰のあるまちづくりを図ります。							⑤・事業実績なし	③未実施(検討中、業務無し等)	⑤・事業実績なし	⑤・街路樹は都市環境の改善や美化に大きく貢献するが、適切な管理方法や予算化が課題となっています。
			⑥津嘉山北地区については、引き続き土地区画整理事業を推進し、地区計画に基づき、快適で利便性の高い良好な市街化環境の形成を図ります。							⑥・地区計画に基づき市街化環境の形成に取り組んでいます。	①順調に進行	⑥・土地区画整理法第76条による建築行為の許可を適切に行い、事業を進めることができました。	⑥・今後も地区計画に基づいた市街化整備をまちづくり振興課と連携し取り組んでいきます。
			⑦自然、利便性、快適性に配慮した質の高い住環境の創出を図ります。							⑦・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、自然環境や景観に配慮した町並みを形成していくとともに、住宅リフォーム助成事業等で、利便性・快適性に配慮した質の高い住環境を創出しています。	①順調に進行	⑦・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な自然環境や景観に配慮した町並みを形成することができ、住宅リフォーム助成事業で利便性・快適性に配慮質の高い住環境を創出できました。	⑦・引き続き、南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、良好な自然環境や景観に配慮した町並みを形成していくとともに、住宅リフォーム助成事業で利便性・快適性に配慮質の高い住環境を創出に寄与していきます。
	(5)都市と農村の調和		①新たに市街化区域に編入された地域(喜屋武・本部・照屋等)については、用途地域に応じた土地利用を図り、市街地と農地の棲み分けを推進します。	まちづくり振興課	-	-	-	-	-	①・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、用途地域に応じた土地利用を行っています。	①順調に進行	①・南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、用途地域に応じた土地利用を図ることができました。	①・引き続き、南風原町都市計画マスタープランや南風原町景観計画に基づき、用途地域に応じた土地利用を図っていきます。
			②地域の独自性やオリジナリティのあるまちづくりをめざし、地区毎の土地利用のあり方について、地元と協働で取り組みます。							②・土地利用の見直しにおいて、地権者の意向も踏まえながら推進しています。	①順調に進行	②・地権者の意向も踏まえながら土地利用の見直しを推進することができました。	②・引き続き、土地利用のあり方について、地権者の意見も踏まえながら取り組みます。
			③那覇空港自動車道南北インターチェンジ周辺地区など、広域交通の都市基盤を活かした土地利用のあり方について、関係者と連携し、継続して取組を強化します。							③・那覇空港自動車道南北インターチェンジ周辺地区の地権者にアンケートをとり、土地利用の意向調査を実施しました。	①順調に進行	③・那覇空港自動車道南北インターチェンジ周辺地区の地権者にアンケートをとり、土地利用の意向調査することができました。	③・引き続き、那覇空港自動車道南北インターチェンジ周辺地区の地権者の意向に沿えるような形で土地利用を推進していきます。
	(6)下水道整備の促進		①公共下水道(汚水)は、土地区画整理事業や道路整備事業等の基盤整備と連携し整備を行い、あわせて人口集中区域の整備を推進します。	住民環境課・まちづくり振興課・区画下水道課	下水道計画面積整備率	62%	64%	67%	95.5%	①・汚水事業について津嘉山北地区区画整理地内、宮平地内、照屋地内、山川地内の整備を行いました。	①順調に進行	①・汚水事業について概ね順調に進行しています。	①・県道や集落内での工事が多いことから地権者、埋設物移設等の協議・調整に時間を要する事が課題となっているので協議・調整は時間に余裕を持って行い、工事進捗に遅れが出ないように取り組んでいきます。
			②公共下水道(雨水)は、土地区画整理事業と連携を図りながら整備を行い、さらに浸水地域について重点的に整備を推進します。							②・雨水事業について照屋地内、大名地内の雨水幹線整備を行いました。	①順調に進行	②・雨水事業について概ね順調に進行しています。	②・集落内での工事が多いことから地権者や周辺建物の事前調査、埋設物移設等の協議・調整に時間を要する事が課題となっているので協議・調整は時間に余裕を持って行い、工事進捗に遅れが出ないように取り組んでいきます。
			③今後、町内や河川上流域の近隣市町における個別開発の進展に対し、中長期の総合的な排水計画の必要性について、関係自治体との連携を図							③・沖縄県総合雨水対策に基づき宅地内浸透を誘導して、河川が氾濫しにくい対策をしています。 ・開発業者、近隣市町との排水計画に関する事前調整を行いました。	①順調に進行	③・沖縄県総合雨水対策に基づき宅地内浸透を誘導して、河川が氾濫しにくい個別の対策ができました。 ・雨水排水計画について開発業者や近	③・引き続き、沖縄県総合雨水対策に基づき宅地内浸透を誘導して、河川が氾濫しにくい対策を推進していきます。 ・近隣市において排水路拡幅工事の計画が

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
			安全・安心で快適な歩行が可能となる環境整備を推進します。							した。 ・町道5路線において防護柵やグリーンベルト等の整備を行いました。		山小学校、北丘小学校地区の安全対策を検討することができました。 ・町道5路線において安全、安心な環境整備を実施できました。	き安全、安心な環境整備に取り組みます。
6 環境と共生する美しく住みよいまち(環境)	1 節 環境への取り組み	(1)ごみの減量化に向けた取組の推進	①5R活動をはじめとする、ごみの減量化・リサイクル・ごみ分別の徹底などの啓発活動を推進するとともに、ごみの資源化率を向上させるための取組を行います。	住民環境課	ごみ減量化 一人一日あたりごみ排出量(事業系・資源ごみを除く)	440g	409g	415g	98.6%	①・5R活動の啓発活動の一環として、資源ごみ集団回収やフリーマーケットを開催しました。	①順調に進行	①・フリーマーケットの開催により、リサイクルの啓発につながりました。	①・引き続き5R 活動の意識高揚を高めていくための事業の実施や、ごみ減量につながる広報活動に取り組みます。
			②事業所へのごみの分別及び減量化、資源化に関する指導に努めます。							②・事業所向けに町ホームページで適正な処理方法の周知広報を行いました。	①順調に進行	②・事業所向けに適正な処理方法の周知が図られました。	②・継続して周知広報を実施しながら、状況に応じて事業所に指導などを行います。
			③小中学校の児童・生徒をはじめ、広く町民全体に対してごみの減量化や食品ロスに関する環境学習を推進します。							③・SDGs に関連して授業で環境問題や給食残量調査等を行いました。	①順調に進行	③・環境についての学習等について推進することができました。	③・継続して環境学習に取り組んで行きます。
			④小中学校をはじめ、公共施設におけるごみの減量化、資源化への取組を推進します。							④・はえばるエコセンター主催講座やエコセンター職員による出前講座を行いました。 ・紙の再利用やペーパーレス化、古紙等の回収を行いました。	①順調に進行	④・出前講座の実施により、ごみの減量化、資源化への意識啓発につながりました。	④・環境学習講座等の開催を広く町民へ周知できるよう取り組んでいきます。
		(2)行政・町民等と連携による循環型社会の構築	①「循環型社会」の構築は、町民・事業者・行政の協働により推進します。	住民環境課	-	-	-	-	-	①・家庭からでる資源ごみの分別や、集団回収、フリーマーケット等の開催を通して5R 活動の意識を高めました。	①順調に進行	①・家庭からでる資源ごみの分別、町内少年野球チームなどの団体の資源ごみ集団回収、コロナ禍で開催できなかったフリーマーケットの開催を通してリサイクルの活動を町民に広く周知できました。	①・今後も様々なイベントを通してリサイクル活動の機運を高めながら、新たな視点で取り組む模索して循環構築へ継続して取り組みます。
		(3)公害及び環境衛生等の対策	①悪臭、騒音などの公害対策については、定期的な観測と原因追及による対策を実施し、改善に向けた指導に努めます。	住民環境課	-	-	-	-	-	①・野焼き・工事等による騒音の相談など速やかな対応と課題解決に向けた取り組みを行いました。	①順調に進行	①・野焼きや工事等の騒音相談について、関係部署からの連絡をもとに現場確認と対応を行い、課題解決に向け取り組みむことができました。	①・職員の安全確保の観点から2名体制で、現場対応を行うことを基本としています。
			②野犬、ハブ、害虫等の対策については、適宜捕獲、駆除等の対策に努めます。							②・野犬捕獲をはじめ住民からの情報をもとに速やかな現場対応と課題解決に向けた取り組みを行いました。	①順調に進行	②・野犬捕獲をはじめ、関係部署と連携し早期の課題解決に向け取り組みむことができました。	②・職員の安全確保の観点から2名体制で現場対応を行うことを基本としています。
			③不法投棄の防止については、関係機関と連携した広報活動、巡回パトロールなど防止活動を強化します。							③・町道や桁下道路等への不法投棄の解決に向け現場対応を行いながら、関係機関と協力し防止活動に取り組みました。	①順調に進行	③・町道や桁下道路等への不法投棄解決に向け、関係機関と連携し防止活動に取り組むことができました。	③・職員体制がとれていないため、定期的な巡回パトロールが実施できておらず、実施に向けた職員体制づくりの整備が課題となっています。
		(4)環境保全の啓発と活動の推進	①環境保全に関する環境学習の開催や情報提供、イベント開催など、多様な手法による啓発活動の推進を図ります。	住民環境課	環境学習の開催数	37 回	51 回	53 回	96.2%	①・はえばるエコセンターによる各種環境学習講座を開催しました。	①順調に進行	①・堆肥づくりはじめとしたリサイクル活動など、様々な年齢層に向けた各種環境学習講座を開催し、啓発活動に取り組むことができました。	①・はえばるエコセンターと協力体制強化をどう図っていくか、環境保全の普及・啓発に向けた情報発信、各種環境学習講座の開催など、様々な年代に興味を持ってもらえるよう取り組んでいきます。
			②各町立学校との連携を密にして、省エネルギー対策活動(フィフティ・フィフティ等)の推進を図ります。							②・事業実績なし。	③未実施(検討中、業務無し等)	②・実施にあたり関係部署と調整ができず取り組みができませんでした。 ・省エネルギー対策活動を行うことができました。	②・具体的取り組みの検討や関係部署とどう連携を図り、班内業務と並行しながら実施できるか調査していきます。 ・引き続き省エネルギー対策活動を実施していきます。
			③家庭や事業所で実践できる環境保全の取組や各種環境情報、SDGs勉強会等の情報の提供に努めます。							③・はえばるエコセンターの環境学習講座を町広報誌・ホームページ等に掲載し情報発信を行いました。	①順調に進行	③・様々な媒体をとおして町民向けに情報発信をすることができました。	③・住民ニーズと時代にあった環境学習講座等の開催を広く町民へ周知できるよう取り組んでいきます。
行財政計画	1 節 効率的で健全な行財政運営	(1)効率的な行政運営の推進	①PDCAサイクル(計画⇒実行⇒評価⇒改善)に基づいた事業の実施を推進し、総合計画の施策の実効性を確保します。	総務課・企画財政課・住民環境課・税務課・会計課・産業振興課・保健福祉課・まちづくり振興課・都市整備課	行政サービスに満足している人の割合	59.6%	-	71.4%	-	①・総合計画のPDCAサイクルが確認できるような評価シートを作成し、各課が実績を入力することで進捗状況を再確認できるよう取り組みました。 ・第五次総合計画に則した、第3次地域福祉推進計画を上位計画とし、第10 次高齢者保健福祉計画、第6次障がい者計画等を策定し、それぞれPDCAサイクルにより事業を実施しています。	①順調に進行	①・評価シートなどでPDCAサイクルが確認できるようにしたことで、事業を進める際に意識しながら取り組めるようになっていきます。 ・令和5年度に第10次南風原町高齢者保健福祉計画及び第6次南風原町障がい者計画等を、外部委員による委員会にて、全計画の評価等も実施のうえ策定しました。	①・評価シートの作成によりPDCAサイクルが確認できるようにしていますが、評価・検証により課題の改善につながるよう、事業に取り組みます。 ・各業務についてもPDCAサイクルを実施できるよう取り組みます。 ・計画の策定員より、障がい者や高齢者など当事者が理解しやすいよう計画書のダイジェスト版などを作れないかと要望があったため、計画書の構成や費用対効果を含めた検討が必要となっています。
			②効率的な行政運営や町民サービスの向上を図るため、民間活用 of 適切な推進と良質な公共サービスの提供を図ります。							②・住基マイナンバー制度の開始により、住民基本台帳カードからの切り替えや、顔写真付きの身分証明書としての機能等の周知をはじめ、個人番号カードの保有と普及推進を図りました。	①順調に進行	②・住基 住民票や戸籍等の手続きの簡素化、社会保障給付の申請手続き等で、課税証明書、住民票の写し等の添付書類が不要となり書類取得の手間が省けま	②・住基 個人番号カードの利便性について、今後は全庁的な取組の中で検討して行うことが必要であると考えています。 ・今後も納税通知書等の印刷・封入・封緘業

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
										・納税通知書等の印刷・封入・封緘業務について業務委託を実施しました。 ・公金取扱いの効率的運営と安全を図るうえから、民間の金融機関を指定して公金の収支事務を実施しています。 ・高齢者、障がい者それぞれの班において、社会福祉法人等専門の事業者へ業務を委託し、福祉サービスを提供しています。 ・民間活力の活用を目的とした、「PPP／PFI導入検討委員会設置要綱」の策定に向けて調査しました。また、民間活力の活用に関する職員研修を行い職員のスキルアップを図りました。 ・(仮称)南風原町民体育館の事業においてPFI導入可能性調査を実施しました。		した。 ・業務委託により時間・費用・正確性において効率的に事業を実施しました。 ・民間の金融機関(銀行)が、公金の収納や支払事務を行うことにより、公金取扱いの効率的運営と安全が図られています。 ・介護予防事業ではスポーツジムに運動機能向上事業を委託したり、障害者相談支援事業を町社協へ委託するなど民間活用によりサービス提供を行っています。 ・PPP／PFIの活用については、1件の検討にとどまっています。 ・(仮称)南風原町民体育館の事業実施においてPFI導入は適切である結果となりました。	務について業務委託を活用していきます。 ・今後もより良い指定金融機関の指定方法等について、調査・研究に努めてまいります。 ・委託先と連携を図りながら、より良い高齢者及び障がい者支援を実施していきます。 ・今後もPPP／PFIの導入に限らず、町民サービス向上の観点から民間活力の活用について検討します。 ・他自治体や先進事例について調査、研究し、効率的な行政運営や町民サービスの向上に取り組んでいきます。
			③社会情勢の変化や多様な町民ニーズ、新たな行政課題等に柔軟に対応できるよう、組織の改編や行政機構の見直しを行います。 ④自治体DXを推進し、住民票や戸籍などの各種手続きの簡素化等を図るなど、効率的な行政運営を図ります。		各種証明書コンビニエンスストア利用率	14.3%	27.2%	32%	85%	③・多様化する町民ニーズや新たな行政課題等に対応するため、令和4年度に組織の見直しを行い、令和5年度から一部実施しています。 ④・住民票や戸籍などのコンビニ交付サービスをはじめ、各種行政手続きのオンライン化に取り組みました。また、住民票や戸籍などのコンビニ交付サービスについて、Youtubeを活用して周知に取り組みました。 ・まちメールについて、Logoフォームを活用したことで、町民が入力しやすくなりました。 ・オンラインによる申請受付を開始し、オンラインによる転出(転居)令和4:47件 令和5:130件 パスポート電子申請令和5:18件の実績がありました。 ・町民サービスの向上を図るため、指定金融機関の派出所窓口へPOSレジを導入しました。 ・障がい者福祉の窓口での申請についてタブレット活用の検討を進めています。また、ペアレントプログラム及びちやーがんじゅう元気プロジェクトの申込みLogoフォームで行えるようにしました。 ・道路占用、法定外公共物及び道路施行承認の申請について、電子申請出来る環境を整備しました。 ・効率的な行政運営を図るため各種口座振替業務の振替データ媒体の見直しを行い、FD 持参からデータ伝送方式へ移行しました。	②一部進行 		

まちづくり 目標	節	施策の展開	施策の展開に紐付く細事業	担当課	KPI					【Do】事業の実績・取組状況	【Check】評価・取組の検証		【Action】 KPI・取組についての課題及び今後の取組
					指標名	参考値 (R2)	最新値 (R5)	目標値 (R8)	集計用 達成度		評価	取組の検証	
												・効率的な事務執行に努めることができました。 ・経費の削減や効率的な事務執行に取り組むことができました。	・引き続き、経費の削減及び効率的な事務執行に取り組めます。
		(3) 広域行政の推進	①ごみ処理や消防など多様な広域行政の連携を推進するとともに、共通する地域課題の広域的な取組に努めます。	住民環境課・保健福祉課	-	-	-	-	-	①・産業廃棄物に係る立入検査等の実施に関する併任職員として県と連携を図りました。 ・在宅医療・介護連携推進事業は、南部地区市町合同で、南部地区医師会へ事業を委託しています。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するため、医療と介護の連携を進め、課題検討や出前講座、情報収集及び発信を行っています。 ②・那覇市と合同で行う公害パトロールなど連携を図り問題解決に取り組みました。 ・H26 年度から南部地区の手話通訳者設置市町と合同で、手話奉仕員養成講座受講修了生に対して合同で学習会を開催しています。また上記とは別で南城市と合同で手話奉仕員養成事業を実施しています。 ・在宅医療・介護連携推進事業は、南部地区市町合同で南部地区医師会へ事業を委託しています。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するため、医療と介護の連携を進め、課題検討や出前講座、情報収集及び発信を行っています。	①順調に進行	①・南部保健所職員と合同で立入検査等を行い連携を図りました。	①・今後も広域連携で推進した方が効果的な事業がないか調査します。 ・毎年実施される立入検査をはじめ、県道や産業廃棄物の不法投棄問題解決に向け連携を密に行い、協力体制のもと取り組んでいきます。
			②市町村間の連携だけでは対応が難しい課題については、国や県等との広域連携を行うなど、課題解決に努めます。								①順調に進行	②・年間6回の公害パトロールなどの実施で連携を図りました。 ・在宅医療・介護連携推進事業では定期的に課題解決に向けた協議会を開催しました。令和5.11.25 には本町で住民向け公開講座を開催し、64 名の参加がありました。手話奉仕員養成講座受講修了生への学習会に令和4は11名、令和5は27 名、手話奉仕員養成講座に令和4は8名、令和5は6名の参加がありました。	②・今後も広域連携で推進した方が効果的な事業がないか調査します。 ・年間6回の公害パトロール以外でも、問題が発生した際には関係機関と連携を行い、協力体制のもと取り組んでいきます。 ・在宅医療・介護連携推進事業は引き続き加がありました。手話奉仕員養成講座受講修了生への学習会に令和4は11名、令和5は27 名、手話奉仕員養成講座に令和4は8名、令和5は6名の参加がありました。 ・奉仕員が公的派遣できる通訳となるためには、県の手話通訳者養成講座を受講すると共に、民間機関「手話通訳者全国統一試験」の合格が必要であることから、手話通訳者まで育成するには本人の努力と、長期間の支援が必要となっています。手話通訳者でもある講師は多忙で、依頼を受けたくても受けることが難しい場面もあり、引き続き他市町と連携して事業の継続を図る必要があります。
		(4) 職員の人材育成	①「南風原町職員人材育成基本方針」に基づき、職員の資質、専門性を高める研修や人事評価の充実を図り、保健福祉課・まちづくり振興課と向き合い施策づくりを担う人材育成に努めます。	総務課・住民環境課・会計課・まちづくり振興課・都市整備課	-	-	-	-	-	①・全職員研修として、令和4年度は人事評価研修、令和5年度はDX研修等を実施したほか、市町村職員研修センターや市町村アカデミーで実施している様々な研修を紹介し、参加することで職員の資質向上に取り組めました。 ・職員の資質向上を図るため庁舎内外の各種研修会に積極的に職員を派遣し、課内全体に情報共有することで組織力の強化を図りました。 ・職員一人一人が業務についての調査・研究に努め、その知識を深めるよう取り組んでいます。 ・沖縄県や福祉関係機関が主催する研修会へ適宜職員を参加させています。 ・経済建設部を中心にまちづくり講座を開催し、過年度や現年度に発注を行った業務を職員へ発表(OJT)し、実務を通して知識やスキルを身につけ、職員の質の向上を図りました。	①順調に進行	①・令和4年度は47 人、令和5年度は35 人の職員が研修に参加し、資質向上に努めています。 ・研修に参加した内容を課・班内に持ち帰り、参加できなかった職員にも共有することで組織力の強化につなげました。 ・職員一人一人が業務についての調査・研究に努め、その知識を深めるよう取り組みました。 ・沖縄県や福祉関係機関、自治研修所等への研修に職員を派遣により資質向上につながりました。 ・経済建設部を中心に職員の質の向上のためまちづくり講座を開催し、職員として必要なスキルを全体に共有することで、人材育成を図ることができました。 ・まちづくり講座を行うことで、資料作成や発表する技術を磨くことができ、担当課以外の事業内容や課題を共有することができました。 ・外部での研修に参加することで他自治体や先進事例の知識を得ることができました。	①・各職員が希望する業務等の把握に努め、有効な研修の周知を図ることで、積極的に研修に参加するする職員が増えるよう取り組んでいます。 ・参加する職員に偏りがでないよう調整を行いながら、今後も継続して各種研修会へ職員全員が参加できるように体制を整えていきます。 ・課内においても、職員の資質向上を図るため相互に切磋琢磨し研鑽を積むと共に、弛まない調査、研究に邁進していく職員の育成に努め、課員一丸となってチームワークで組織力を強化して町益を最優先にし更なる町民サービスの向上に取り組んで参ります。 ・福祉制度は改正も多いため、適宜職員を研修へ派遣し、自治研修所等の研修にも引き続き職員へ参加を促します。 ・引き続きまちづくり講座を開催し、業務を成や発表しあうことにより職員の能力を向上させ、人材育成を図っていきます。 ・引き続きさまざまな研修に参加し、有益な情報を収集することで、職員の能力を向上させていき、人材育成を図っていきます。